



シスメックス レポート

2016

2015年4月1日～2016年3月31日

シスメックスレポート 2016



シスメックス株式会社

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp



シスメックス株式会社



ヘルスケアの進化をデザインする。

シスメックスは新たな価値の創造を通じ、
世界中の人々の健康に貢献していきます。

Sysmex Way

Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心を届けます。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



目次

▶ はじめに

シスメックスグループ企業理念.....	2
持続的成長の軌跡.....	5
持続的成長を支える 3つのポイント.....	7

▶ ステークホルダーの皆様へ

CEOメッセージ.....	9
長期・中期経営計画.....	13
財務に対する考え方.....	15

▶ シスメックスの価値創造

価値創造のビジネスモデル.....	19
シスメックスの強み.....	21
成長のフロンティア.....	23

▶ 事業活動

事業領域と市場ポジショニング.....	29
主な検査分野と製品.....	31
研究開発.....	33
生産.....	35
販売・サービス&サポート.....	37
所在地別事業概要 (米州、EMEA、中国、アジア・パシフィック、日本).....	39

▶ 持続的な企業価値向上に向けて

コーポレート・ガバナンス.....	51
取締役.....	57
社外取締役メッセージ.....	59
執行役員.....	62
人材開発・育成.....	63
環境保全.....	65
社会への貢献.....	67

▶ 財務情報等

連結財務・非財務データ(11期).....	69
連結財務諸表.....	71
株式情報.....	77
会社情報.....	78

編集方針

「シスメックスレポート」は、ステークホルダーの皆様がシスメックスの中長期的な価値創造についてご理解いただきたいという思いから、財務・非財務情報を簡潔にまとめた「統合報告書」として作成しています。より詳細な情報につきましては当社Webサイトをご参照ください。

対象組織

原則としてシスメックスグループ（国内・海外グループ会社を含む）を対象としています。本レポート中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」はシスメックス株式会社単体を指します。

会計基準

本レポートに掲載されている2016年3月期までの財務数値は日本基準に準拠して表示しています。なお、シスメックスは2017年3月期第1四半期から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。

見通しに関する注意事項

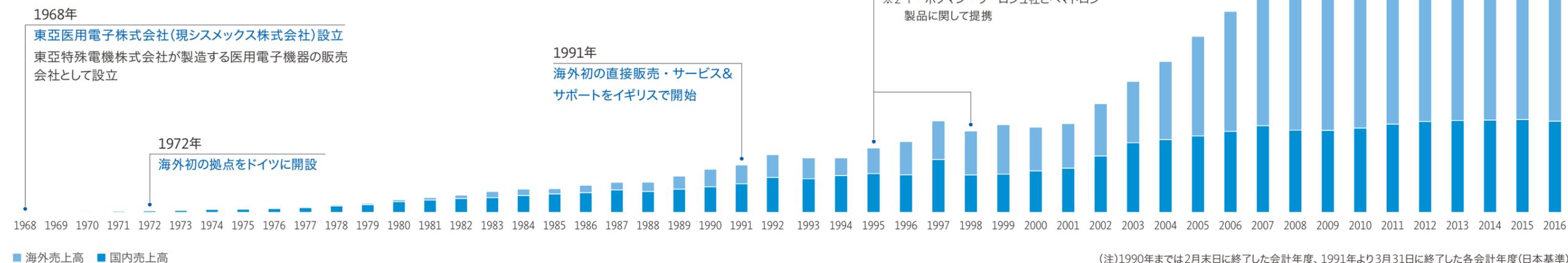
本レポートに記載されているシスメックスの将来の計画・戦略・業績などは、現在入手可能な情報に基づくものであり、リスクや不確定な要素を含んでいます。実際の業績などは、これらの見通しとは大きく異なる可能性があります。

持続的成長の軌跡

創業以来、新たな価値を創出することにより、 持続的な成長を達成してきました。

シスメックスは、積極的な研究開発を進め事業分野を拡大するとともに、グローバルに販売・サービス& サポート網を構築してきました。その結果、さまざまな環境変化の中でも成長を続けています。

(億円)	創業時 1968.2	1988.2	2008.3	2016.3
売上高	1.5	132	1,107	2,531
営業利益	0.1	19	150	569
海外売上高比率(%)	—	31	67	84
研究開発費	0.0	6	92	177
従業員数(人)	7	609	3,916	7,446



(注)1990年までは2月末日に終了した会計年度、1991年より3月31日に終了した各会計年度(日本基準)
1993年3月期までは単体ベース、1994年3月期以降は連結ベース

2016年3月期連結売上高
2,531億円

1963年
国産初の自動血球計数装置を開発
(東亜特殊電機株式会社)

CC-1001

1984年
血液凝固分野へ参入

CA-100

1990年
世界初のヘマトロジー(血球計数)分野のシステム製品を発売

ヘマトロジー分野システム製品

2000年
ライフサイエンス分野に研究開発を拡大
中央研究所を現テクノパークに開設

中央研究所(当時)

2001年
試薬の研究開発力の強化
現シスメックス国際試薬株式会社を完全子会社化

国際試薬株式会社
(現シスメックス国際試薬株式会社)

2013年
個別化医療に向けた技術プラットフォームを拡充
現シスメックス パルテック、現シスメックス アイノスティクスを子会社化

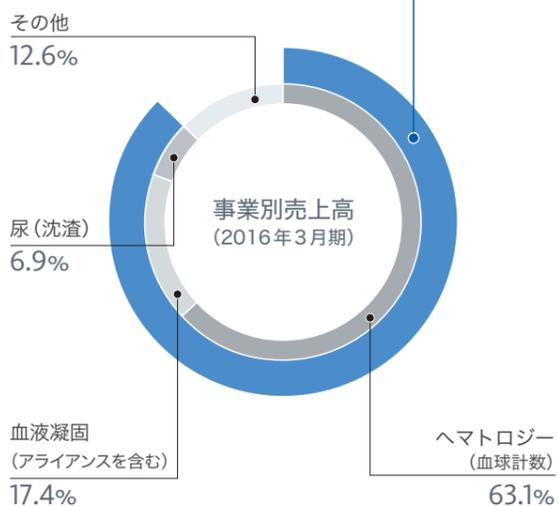
シスメックス アイノスティクス

持続的成長を支える3つのポイント

Point 1 高い競争力： 売上高の約9割が世界トップシェア

病院の検査室や検査センターなどがシスメックスのお客様であり、血液や尿などを分析する検体検査を主な事業領域としています。赤血球や白血球などを分析するヘマトロジー（血球計数）分野に加え、血液凝固、尿（沈渣）分野で業界トップシェアを占めています。さらに、積極的な研究開発により、独創的で価値の高い検査・診断技術の創出に取り組んでいます。

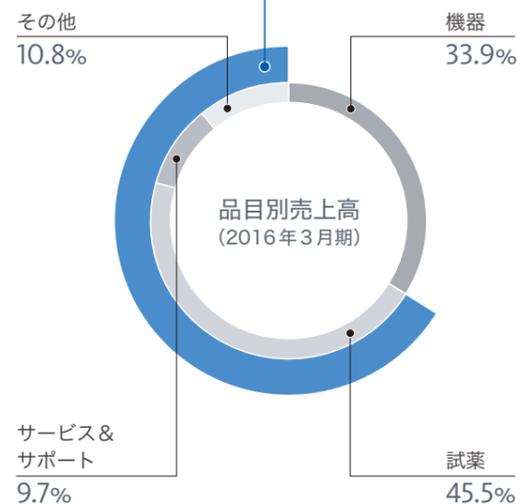
3つの分野で世界シェア1位



Point 2 安定成長を可能にする ビジネスモデル

健康や治療に対する需要は景気に左右されにくいという特徴があります。また、シスメックスの売上は検査機器に加え、試薬やサービス&サポートなどで構成されています。試薬とサービス&サポートは機器を使用いただく際に必要となるため、継続した収益が見込まれます。

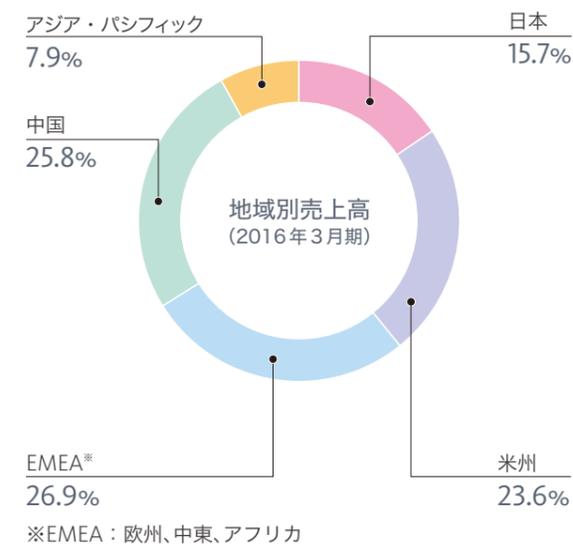
試薬とサービス&サポートなどで
売上高の6割以上を構成



Point 3 190カ国以上をカバーする 販売・サービス&サポート体制

シスメックスは各地域の特徴に応じた販売・サービス&サポート体制を通じて、世界190カ国以上に高品質な製品・サービスを提供しています。お客様のご要望を直接伺い迅速に対応できる直接販売・サービス&サポート体制に加え、地域の商習慣に対応できる間接販売体制も活用し、グローバル化を加速させています。

グローバルにビジネスを展開



ステークホルダーの皆様へ



「Sysmex Way」の実践を通じて社会に貢献し、
企業価値を向上させていきます。

CEOメッセージ

シスメックスのミッションは
「ヘルスケアの進化をデザインする。」

シスメックスはグループ企業理念「Sysmex Way」において、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をミッションに掲げ、事業を展開しています。創業以来取り組んできた検体検査分野を事業の核として、今後もヘルスケア領域での進化に挑戦し、豊かな健康社会づくりに貢献していきます。

長期ビジョン達成に向けて

シスメックスは2020年に向けた長期ビジョン「A Unique & Global Healthcare Testing Company」を達成するため、6つのポジショニングを設定しました。その実現に向けて2015年5月に中期経営計画を策定し、グループのさらなる成長と収益力の強化、成長へ

の投資、変革の推進を行っています。（長期経営目標・中期経営計画は13ページ参照）

中期経営計画1年目の2016年3月期は、業績および事業活動ともに順調に推移しました。2016年3月期の売上高は、中国・EMEAをはじめとする海外においてヘマトロジー分野、血液凝固分野などが好調に推移した結果、前期比14.4%増の2,531億円となりました。営業利益は増収効果やドル、人民元に対する円安の影響もあり、前期比28.3%増の569億円となりました。

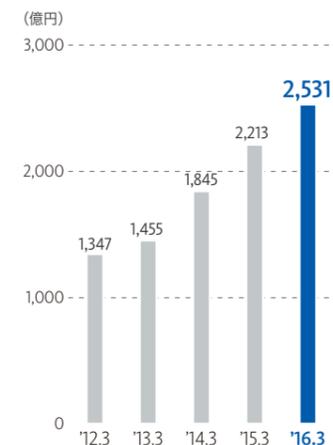
2016年3月期の事業活動としては、主力のヘマトロジー分野においてフラッグシップモデルのXNシリーズの販売拡大などにより収益性が向上しました。血液凝固分野については、中国を中心に好調に推移し、尿分野においては新製品発売に加え、栄研化学株式会社との業務提携により製品ポートフォリオを拡充しました。免疫分野では、日本において当社独自の試薬の販売が好調であり、中国においてもHISCL™シリーズの販売を大幅に拡大するなど、アジアにおける検体検査領域のリーディングカンパニーとしての活動を着実に推進しました。また2015年7月には、今後の試薬の需要増加に対応するため、ドイツの試薬生産

工場を拡張し、生産能力を従来の1.5倍に増強しました。米国の試薬生産工場についても2017年6月の完成を目指して拡張を行っています。

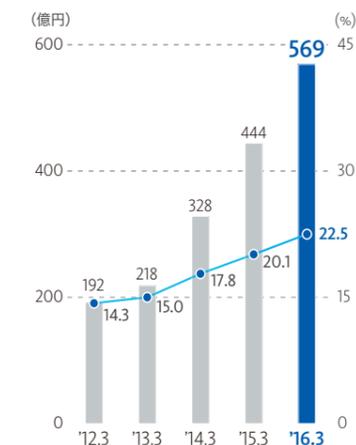
また、今後の成長を加速させるための研究開発も積極的に進めており、ヘマトロジーなど主力検査分野に加え、個別化医療に向けた新たな検査・診断技術の

創出にも取り組んでいます。2016年2月にはエーザイ株式会社と認知症領域に関する次世代診断薬の共同開発にも着手しました。2013年に子会社化したシスメックス パルテック、シスメックス アイノスティックスの事業についても、既存ビジネスとのシナジーを発揮させ、個別化医療への本格参入に向けた取り組みを強化しています。

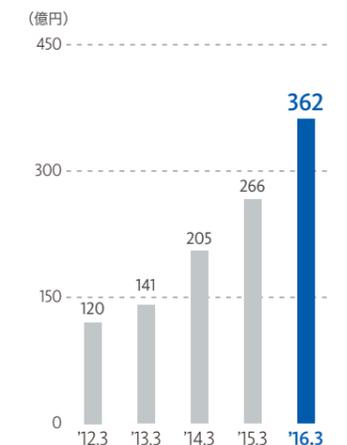
売上高



営業利益
営業利益率



親会社株主に帰属する
当期純利益



社会の課題に対して価値を創出

～独自の技術で豊かな健康社会づくりを目指す～

先進国では高齢化を背景とした医療費削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっており、新興国では医療の質向上や医療インフラの整備、医療アクセスの向上が求められています。このような社会が抱えるさまざまな課題に対し、検体検査領域において新たな価値を生み出していくとともに、解決することがシスメックスの役割であると考えています。

私たちは、これまでも時代の変化により生じる課題をいち早く捉え、事業活動を行ってきました。高度経済成長期の1960年代には、健康への関心の高まりにともなう検査ニーズ拡大を見据え、国産初となる自動血球計数装置の実用化に成功しました。その後、より迅速で正確な検査、臨床的意義の高い検査を創出し続けています。また、機器に加え検体検査に必要な試薬とサービス&サポートの提供、さらには効率化を推進するシステム製品の開発など、病院をはじめとしたお客様の多様なニーズにお応えしています。

お客様や患者さんに安心して検査をしていただくための付加価値も生み出しています。例えば、医師がスムーズに診断を行うためには検査結果が不可欠です。シスメックスはサービス&サポートにおいて、機器のエラーを発生前に察知することにより、検査ができなくなるダウンタイムの短縮に努めています。また、患者さんのQOL(生活の質)向上にも取り組んでおり、がんなどの患部組織ではなく、血液や体液を用いて検査を行う、リキッドバイオプシーの実現に向けて挑戦を続けています。

今後も、お客様の期待を超える新たな価値を創造し、独自の知恵と技術で社会が抱える課題の解決に努めていきます。

さらなる企業価値向上に向けて

～人材の多様性とオープンイノベーション～

企業の成長には、目に見えない価値の果たす役割が大きく、中でも人材は成長に向けた重要な原動力のひとつです。シスメックスはさらなる成長に向けて多様な人材の能力開発、育成を推進しています。次世代を担う人材育成とコミュニケーションの活性化を目指し、2015年4月に「グローバルコミュニケーションセンター」を設立しました。コミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、気づきを得ることで、新たな価値や文化の探求、創出に力を出し合うことを目指します。

もうひとつの重要な目に見えない価値は、外部とのネットワークです。グローバル競争においては、自社単独ではなく、広い視野でネットワークを拡大することが不可欠です。シスメックスは、独自の直接販売・サービス&サポート体制に加え、アライアンスを活用したグローバル展開を加速させています。また、研究開発においても、国立がん研究センターなど、さまざまな研究機関や企業、大学などとのコラボレーションを積極的に進めています。例えば、シスメックス アイノスティクスは、2015年12月ドイツのメルク社と共同で転移性大腸がんの抗がん剤を対象としたコンパニオン診断薬^{*}(研究用)の運用を開始しました。がん組織ではなく血液を用いて行う本検査は、患者さんの負担を軽減するとともに、転移性大腸がんの治療において、迅速な治療法の決定に寄与することが期待されます。

さらに、2015年9月には、個別化医療の実現に向けた研究開発の取り組みを加速させるため、オープンイノベーションラボをシスメックスの研究開発の中核拠点「テクノパーク」内に開設しました。国内外の研究者とのコラボレーションによる先進的で価値の高い検査・診断技術の創出を目指します。

^{*}コンパニオン診断薬：医薬品の効果や副作用を投薬前に予測するために用いられる臨床検査



ステークホルダーの皆様へ

私たちは、お客様や株主の皆様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様から高い信頼を得ながら成長してきました。今後もコーポレート・ガバナンスにおいて、経営の健全性、透明性を高め、株主・投資家の皆様との対話(エンゲージメント)を積極的に行い、持続的に企業価値を向上させていきます。経営体制は、2016年6月に監査等委員会設置会社に移行し、社外取締役を3名増員し、合計4名としました。取締役会の監査監督機能を強化するとともに、経営の透明性、客観性を向上させ、ガバナンス体制の一層の充実を図ります。また、財務情報の国際比較を可能にすることで、国内外の投資家の皆様の利便性を高めることを目的とし、2017年3月期第1四半期から国際会計基準(IFRS)の任意適用を開始しました。

シスメックスには今後も大きな成長機会があると確信しています。さらなる成長に向けて、技術プラットフォームの強化や生産、販売・サービス&サポート体制の充実を目指し、積極的に研究開発や設備投資、そしてM&Aも続けていきます。株主還元については、積極的な投資と株主の皆様に対する利益還元との

適正なバランスを目指し、連結配当性向は30%を目途としています。2016年3月期の配当は、期初計画より12円増配し年間52円、配当性向は29.8%となり、14期連続の増配となりました。今後も継続的な安定配当を目指してまいります。なお、2016年3月期のROEは20.4%となり、今後も健全な財務バランスを維持しながら、ROEの向上を目指します。

シスメックスは、企業理念のもと、独自の強みを活かし、社会に新たな価値を提供することで企業価値を高め続けていきます。ステークホルダーの皆様には、引き続き中長期的な視点でシスメックスの挑戦をご支援いただき、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年9月

代表取締役会長兼社長

家次恒

長期・中期経営計画

グループ企業理念「Sysmex Way」のもと、
長期経営目標、中期経営計画を推進しています。

ビジョン
A Unique & Global Healthcare Testing Company

ポジショニング

長期経営目標 (2020年)

<p>ヘマトロジー、血液凝固、尿分野におけるグローバルNo.1 (アライアンス含む) 当社の中核事業として、グループのさらなる成長を支える 収益基盤を構築します。</p>	<p>個別化医療に貢献する先進的なグローバルプレーヤー 先進的な技術に基づく検査(診断)の価値向上を通じ、 グループの成長加速とグローバルな存在感を確立します。</p>
<p>アジアIVD(検体検査)市場におけるリーディングカンパニー 地理的な優位性を発揮し、ヘマトロジー分野以外の免疫などの 成長分野においてもアジア市場で確固たる地位を築きます。</p>	<p>価値と安心を提供する魅力あふれる会社 多様なステークホルダーに価値と安心を提供する 魅力ある会社を目指します。</p>
<p>免疫分野におけるユニークで存在感あるプレーヤー 他社にないユニークな強みを発揮し、中期の成長ドライバーとして、 グループの成長を牽引します。</p>	<p>スピード豊かな経営を実践するOne Sysmex グループ全体で最高のチームワークを発揮し、 高効率でスピード豊かな経営を実践する企業体を目指します。</p>

<p>中期経営計画 (2016年3月期～ 2018年3月期) 2015年5月公表</p>	<p>成長と収益力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ヘマトロジー・血液凝固・尿 ●アジア地域 	<p>成長への投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ●免疫・FCM※・ライフサイエンス 	<p>変革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ステークホルダーからのさらなる信頼の獲得 ●グループ経営の強化 	<p>経営数値目標(2018年3月期、日本基準)</p> <table border="1"> <tr> <td>売上高</td> <td>3,000億円</td> <td>(CAGR = 10.7%)</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>630億円</td> <td>(CAGR = 12.4%) (営業利益率21.0%)</td> </tr> <tr> <td>ROE</td> <td>18.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>営業キャッシュ・フロー</td> <td>500億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>フリー・キャッシュ・フロー</td> <td>200億円</td> <td></td> </tr> </table> <p>想定レート：1USD=115円、1EUR=130円、1CNY=18.5円 CAGR(年平均成長率)：2015年3月期-2018年3月期 (注)中期経営計画(3年間)は2年ごとに策定(新中期経営計画は2017年5月公表予定)</p>	売上高	3,000億円	(CAGR = 10.7%)	営業利益	630億円	(CAGR = 12.4%) (営業利益率21.0%)	ROE	18.0%		営業キャッシュ・フロー	500億円		フリー・キャッシュ・フロー	200億円	
売上高	3,000億円	(CAGR = 10.7%)																	
営業利益	630億円	(CAGR = 12.4%) (営業利益率21.0%)																	
ROE	18.0%																		
営業キャッシュ・フロー	500億円																		
フリー・キャッシュ・フロー	200億円																		

※FCM：Flow Cytometryの略。微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して、個々の粒子を光学的に分析する手法のこと。主に細胞を個々に観察する際に用いられる。

財務に対する考え方

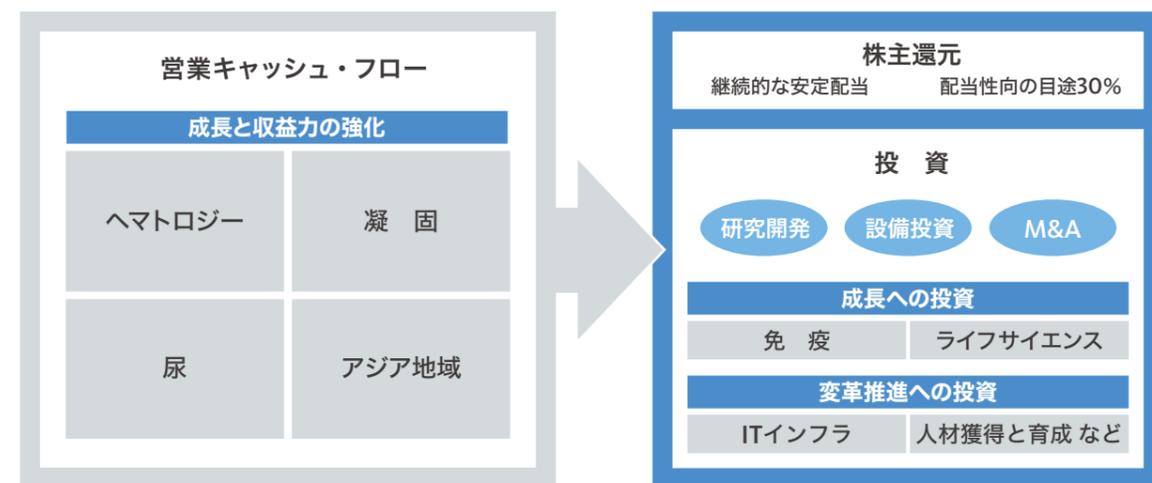
積極的な投資を行うとともに、 適正な株主還元を行います。

資金の創出と使途

シスメックスは、ヘマトロジー、血液凝固、尿などシェアの高い分野およびアジア地域での成長などにより収益力を強化し、営業キャッシュ・フローを拡大しています。

創出した資金から、さらなる成長に向け研究開発、設備投資、M&Aへの投資を積極的に行っています。

また、主力ビジネスに加え、特に免疫やライフサイエンスなど成長の柱となる事業、およびITインフラの整備や人材獲得・育成など変革の推進への投資にも注力しています。なお、株主還元については、継続的な安定配当に留意し、ROEのさらなる向上を目指します。

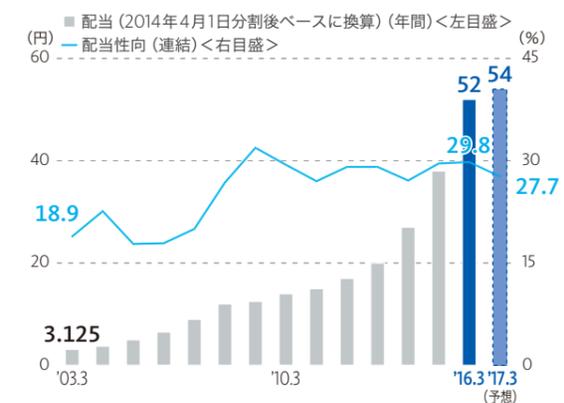


株主還元

安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上にともなう株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しています。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

- 継続的な安定配当に留意
- 配当性向30%を目処に実施
- 14年連続で増配

配当額と配当性向の推移

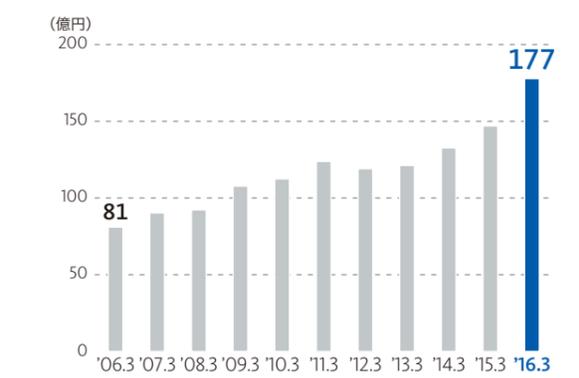


企業価値向上に向けた積極的な投資

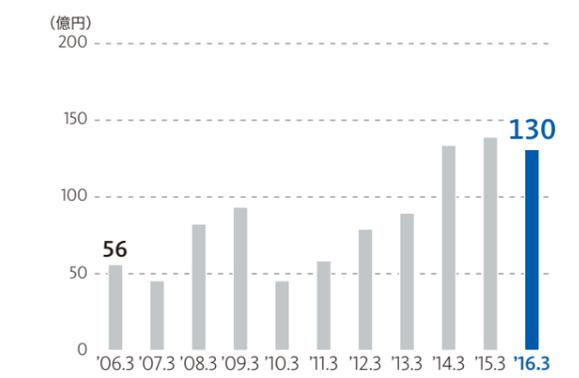
シスメックスはさらなる成長に向け、免疫やライフサイエンスなど今後の成長を加速させるための投資を行っています。また、価値の高い新しい検査や診断技術の創出に向けた研究開発、グローバルな供給責任を果たすための生産工場拡張などの設備投資、技術プラットフォーム拡充を目的としたM&Aなどを行っています。その結果、過去10年間の研究開発費および設備投資の金額は増加傾向にあります。

- 免疫、ライフサイエンスなど今後の成長を加速させるための研究開発
- グローバルな供給責任を果たすための生産工場拡張などの設備投資
- 技術プラットフォーム拡充などを目的としたM&A

研究開発費



設備投資 (有形)



ROE

2016年3月期にROEは20.4%となり、2006年3月期から7.9ポイント改善しました。今後も健全な財務バランスを維持しながら、ROEの向上を目指していきます。

- 適正な株主還元を継続
- 健全な財務基盤を維持
- 利益の増加

ROEの推移



シスメックスの価値創造

社会が抱える課題に対し、
検体検査領域において価値を提供し、
豊かな社会づくりに貢献します。



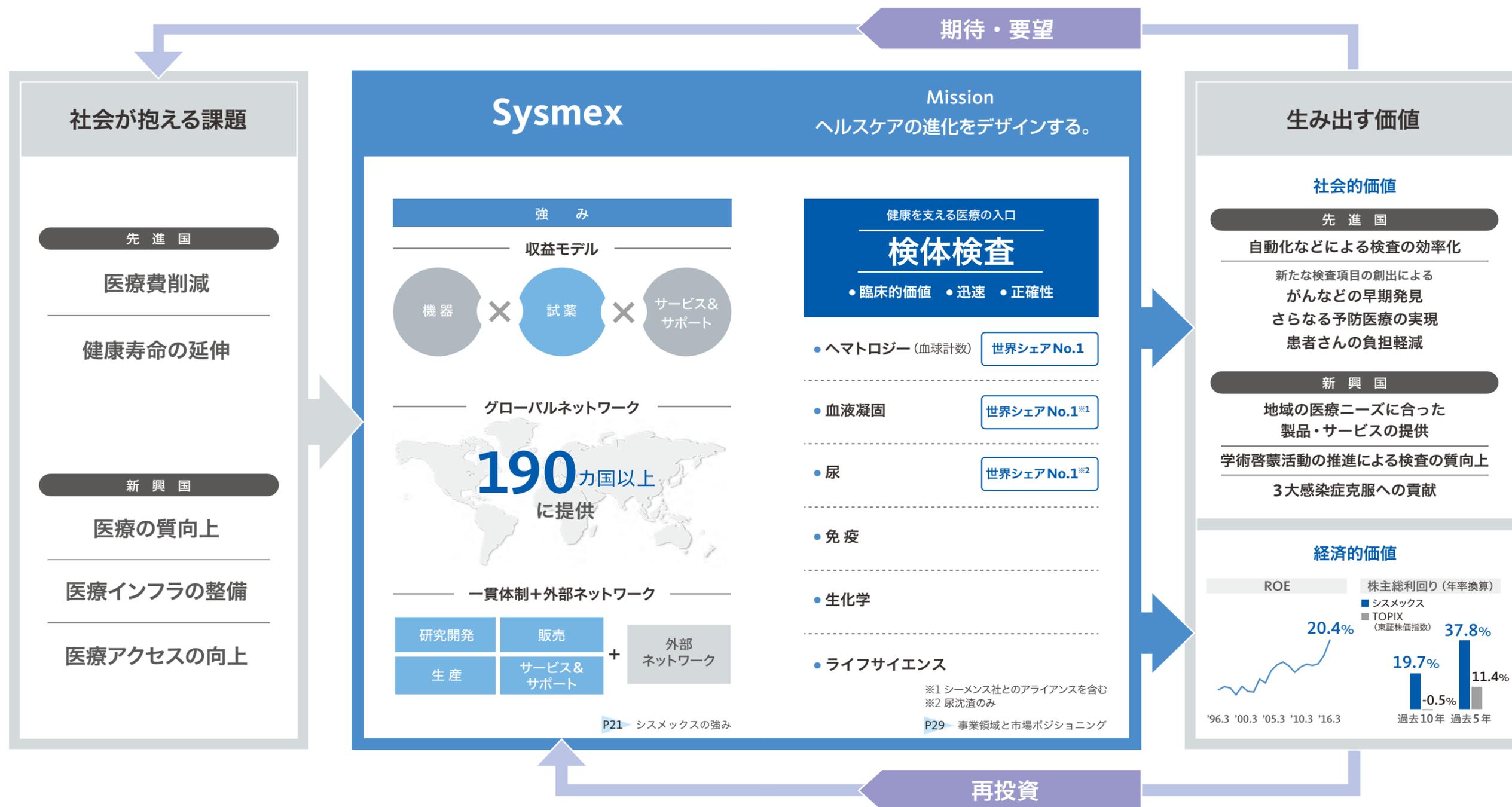
価値創造のビジネスモデル

社会が抱える課題に対して、
検体検査領域において強みを活かし
新たな価値を創出しています。

シスメックスは、グループ企業理念におけるミッションとして「ヘルスケアの進化をデザインする。」を掲げ、独自の強みを発揮し、医療の入口と言われる検体検査領域で事業を展開しています。企業理念の実現に向けた取り組みとして、検査の効率化や新たな検査

項目の創出、検査の質向上など、先進国・新興国それぞれが抱える課題に対応する価値を提供しています。

さらに、事業を通じて生み出された価値を再投資することで、社会の期待・要望の高まりにともない変化
する課題に対応し、新たな価値を創出していきます。



期待・要望

再投資

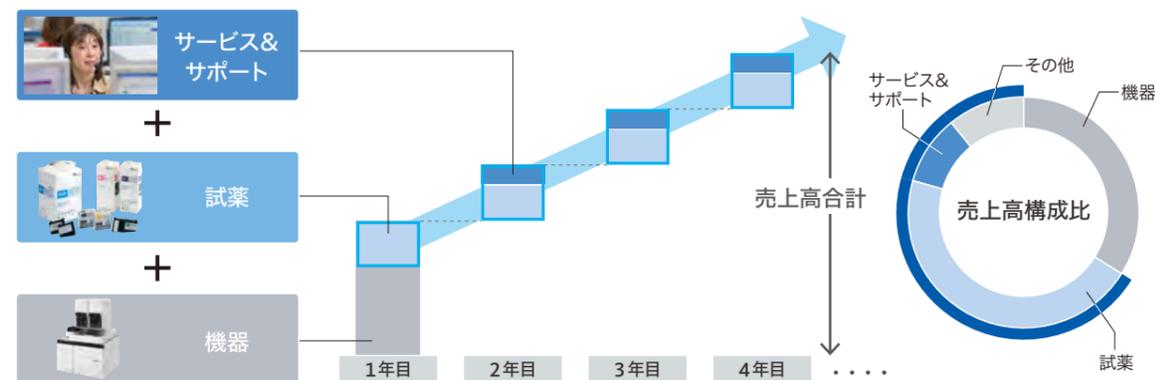
シスメックスの強み

強固な収益モデルのもと、お客様のニーズに迅速に応える体制を構築し、世界中に価値を提供しています。

収益モデル

検体検査機器は、検査のたびに試薬を使用します。また、お客様に安心してお使いいただくためのサービス&サポートも行っています。このようにお客様に機器を購入いただくと、その後も試薬やサービス&サポートの提供に結びつくため、継続した収益が見込まれます。

なお、売上高の6割以上を試薬やサービス&サポートなどが占めています。さらに、ヘルスケア業界は景気の影響を受けにくいいため、シスメックスの安定成長を可能にしています。



グローバルネットワーク

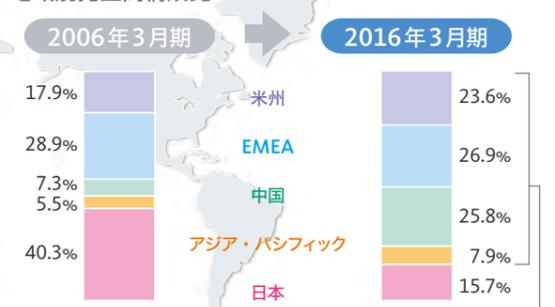
世界190カ国以上のお客様に高品質な製品、サービス&サポートを安定的に供給するため、直接・間接の販売・サービス&サポート体制と試薬生産体制をグローバルに構築しています。先進国に加え、新興国

へも積極的に展開を進め、現在は世界41カ国に63社のグループ会社を有しています。また、2016年3月期の海外売上高比率は84.3%となりました。

関係会社数



地域別売上高構成比



海外売上高比率 84.3%

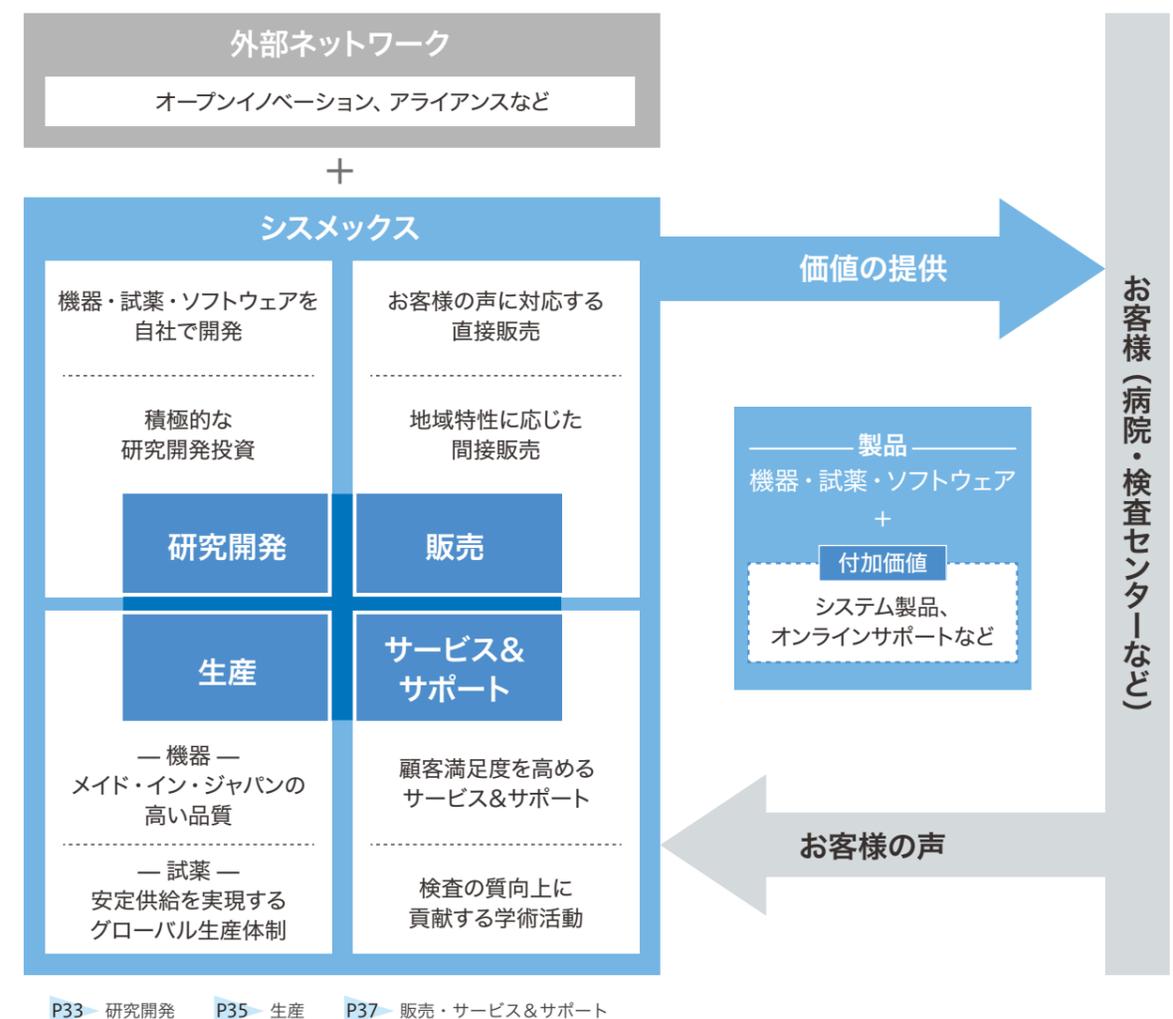
P39 所在地別事業概要

一貫体制+外部ネットワーク

シスメックスは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートまでを自社でグローバルに構築し、さまざまな課題を抱えるお客様の複雑なニーズにお応えしています。この体制により、検査に必要とされる高品質な機器・試薬・ソフトウェアに加えて、システム製品やオンラインサポートなどの高い付加価値を提供する

ことが可能となり、世界中のお客様から高い評価をいただいています。

さらに、オープンイノベーションやアライアンスを積極的に進めることにより、外部の技術やアイデアを活用し、変化の速い市場ニーズに応えています。



成長のフロンティア

主力分野に加え、免疫・ライフサイエンス分野への拡大を図り、さらなる成長を目指します。

成長のフロンティア

シスメックスは、長期経営目標のビジョンに「A Unique & Global Helthcare Testing Company」を掲げ、高成長の持続と収益力のさらなる向上に取り組んでいます。現在シスメックスが高い競争力を持つヘマトロジー、

血液凝固、尿分野において、さらなる成長を支える収益基盤を構築するとともに、免疫やライフサイエンスなど今後の成長を担う分野に積極的な投資を行っています。

中長期の成長イメージ

- **ヘマトロジー、血液凝固、尿：**
当社の中核事業としてグローバルNo.1の地位を確固たるものとし、グループのさらなる成長を支える収益基盤を構築する。
- **免疫：**
免疫分野を中期成長ドライバーとして、他社にはない独自の価値の高い検査項目を開発し、競争力を強化する。
- **ライフサイエンス：**
先進的な技術にもとづく検査（診断）の価値向上を通じて個別化医療の実現と発展に貢献し、グループの持続的な成長を推進する。



中期の成長ドライバー：免疫分野

免疫検査は、感染症やがん、心疾患などの診断から治療経過観察まで幅広く利用されており、病気の早期発見や治療において重要な役割を果たしています。

免疫分野でのシスメックスの強みは、高機能・高性能な機器と、他社にはない独自の試薬項目を有していることです。この強みを活かして、日本をはじめ成長が

見込まれる中国を含むアジアに展開しています。

今後は、試薬の項目拡大に加え、オンラインサポートを活用したサービス&サポート体制を強化することにより、免疫分野におけるビジネス展開をさらに加速させていきます。

高機能、高性能な機器

全自動免疫測定装置 HISCL™ シリーズは、感度が高く、すべての項目が17分で測定できる迅速性を特長としています。また、微量なサンプルでも検査可能であること、操作性が高いなど優れた機能を備えています。

HISCL™シリーズの特長

高感度	迅速性
微量検体	ユーザビリティ



HISCL™-5000

独自の試薬ラインアップ

シスメックスが提供する免疫分野の試薬は他社にはない独自のラインアップが特長です。世界で初めて糖鎖マーカー※

を用いた肝臓の線維化検査技術の実用化に成功するなど、新たな価値を提供する独自の試薬項目を創出しています。

新たな試薬項目

HISCL™ M2BPGi™

肝細胞がんの原因となる慢性肝炎から肝硬変に至る肝臓の線維化の進行度を、血液検査で迅速に判定

肝臓の線維化の進行度の判定

従来は入院し組織を採取して判定

採血のみで判定が可能に

HISCL™ TARC試薬

アトピー性皮膚炎の診療前検査を可能にする定量的かつ迅速な測定を実現

アトピー性皮膚炎の治療効果の測定

一般的には医師の診察で重症度を判定

客観的な数値情報を診断に役立てることが可能に

※糖鎖マーカー：糖タンパク質に存在する糖鎖の構造変化をターゲットにしたバイオマーカー

成長のフロンティア

持続的な成長を推進するライフサイエンス分野

患者さん一人ひとりに最適な医療の提供を目指す個別化医療

これまでの医療では、疾患ごとに標準的な診断や治療が施されてきました。しかしながらポストゲノムの時代となり遺伝子が解読されると、遺伝子もしくは細胞・タンパクを解析することにより、それぞれの患者さんの特性と疾患の特徴に合わせた医療の提供が可能となってきました。

例えば、疾患の発症リスクを診断する検査や再発の早期発見に向けた検査に加え、投薬治療において効果や副作用を予測することも可能になりつつあります。

これらの検査により、一人ひとりに最適な医療や治療薬を選択して提供できるようになり、患者さんの身体的な負担の軽減だけでなく、医療費の抑制も期待されています。

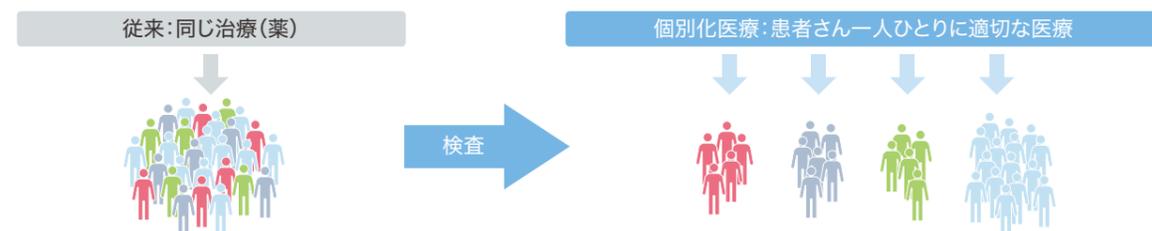
個別化医療を推進するライフサイエンス事業

シスメックスは個別化医療のトレンドを的確に捉え、研究・開発を進めてきました。

これまで、特にがんを中心とした診断における独自の検査技術の開発に注力しており、がんのリンパ節転移検査を行うOSNA™法や、乳がんの再発予測を行うCurebest™ 95GC Breast (研究用) などさまざまな技術や製品・サービスを創出してきました。

さらに、個別化医療の実現に向けた技術プラットフォームの拡充を目指し、2013年にアイノスティクス社(現シスメックス アイノスティクス)を買収し事業を推進しています。

検査を通じた個別化医療の実現



がんの疾患ステージごとのシスメックス アプリケーション

ステージ	スクリーニング	診断	再発予測	治療効果予測	モニタリング
アプリケーション		OSNA™法*を用いたリンパ節転移迅速検査システム	Curebest™ 95GC Breast (乳がん再発予測解析受託アッセイサービス)	OncoBEAM™/PSS (微量遺伝子変異解析)	

*OSNA™法: シスメックスが開発した直接遺伝子増幅法 (One-Step Nucleic Acid Amplification)。1個のリンパ節へのがん転移の有無を約30分で判定できる。

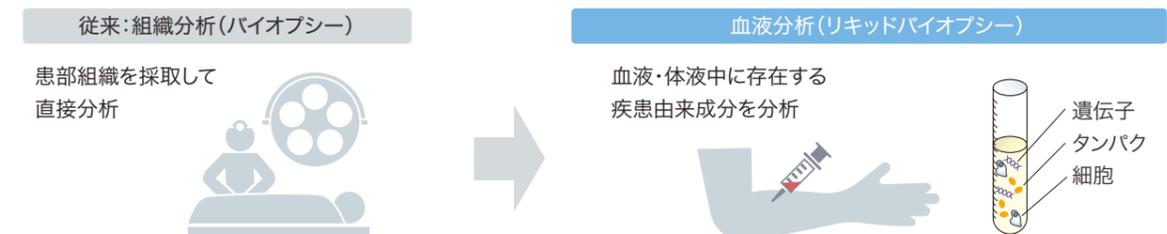
個別化医療をけん引するリキッドバイオプシー

近年、血液・体液の中には病気の患部の情報を持った遺伝子・タンパク・細胞などが存在することが判明しました。これにより、血液や体液を高感度に分析することで、患者さんから患部組織を採取していた侵襲性が高く高額な診断と同等の検査結果を得ることが可能になってきました。このリキッドバイオプシーと

呼ばれる技術により、患者さんの身体的・経済的負担が軽減され、繰り返し検査(モニタリング)が可能という利点があり注目されています。

シスメックスは個別化医療におけるリキッドバイオプシーの実現を戦略のひとつに位置づけ、研究開発を進めています。

リキッドバイオプシーによる個別化医療



血液中のがん遺伝子測定

シスメックス アイノスティクスは、血液中の微量循環がん遺伝子を非常に高い感度で解析するBEAMing技術(OncoBEAM™)およびプラズマシーケンス技術(PSS)*を有しており、最新のがん遺伝子検査の研究開発ならびに受託アッセイサービスを進めています。

従来のがん遺伝子検査では、手術時に摘出した患部組織を用いていましたが、BEAMing技術により血液を用いた同等の検査が可能になり、患者さんの負担が軽減されます。また、患部組織の採取が困難な患者さんにおいても、繰り返し検査が実施できるため、がん再発の早期発見など、モニタリングへの活用が期待されています。

これまではBEAMing技術の工程は手作業が中心でしたが、シスメックスが培ってきた自動化のノウハウを活かし、標準化に向けた工程の短期化・省力化に取り組んでいます。

BEAMing技術を利用した検査・診断技術のさらなる創出を目指し、研究機関や医療機関とのコラボレーションも推進しています。

*プラズマシーケンス技術(PSS): DNA1分子ごとに標識を付加して各遺伝子を識別して増幅することにより、標的DNA分子を特異的かつ高感度に遺伝子配列解析する技術



シスメックス アイノスティクス

事業活動

シスメックスは検体検査領域を
事業の舞台として、
グローバルに展開しています。

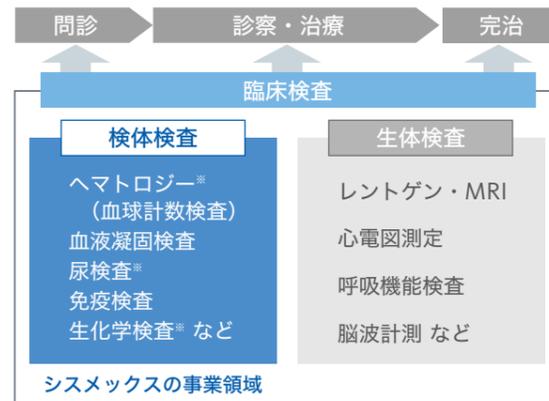


事業領域と市場ポジショニング

市場が拡大する「検体検査」領域において強みを活かし、成長を続けています。

医療に不可欠な検体検査領域で活躍

臨床検査は、診断や治療、治療効果のモニタリングなどさまざまな場面で使用されており、医療には不可欠です。臨床検査は、体内から採取した血液や尿、細胞などを調べる検体検査と、レントゲンや心電図など体を直接調べる生体検査の2種類に分けられます。シスメックスは検体検査領域を中心に事業を展開しています。



※健康診断でも行われる検査

市場におけるポジション

シスメックスは検体検査領域で機器、試薬およびソフトウェアをグローバルに提供しており、検体検査領域における世界トップ10企業のひとつです。ヘマトロジー、血液凝固、尿（沈渣）の3分野ではグローバルシェアNo.1（アライアンス含む）を獲得しており、アジアではこの3分野に加えて免疫など成長分野にも展開することで、検体検査領域のリーディングカンパニーとしての地位確立を目指しています。

今後、検体検査領域は先進国での医療ニーズ拡大や新興国における医療インフラ整備などにより、さらなる成長が予測される一方、異業種からの参入もありグローバルな競争の激化が予想されます。このような環境変化に対し、シスメックスは独自の強みを活かしながら企業価値の最大化に向けて取り組み、市場での地位を着実に向上させていきます。

市場規模とシスメックスの事業領域

検査分野	市場規模 (百万ドル)	市場 成長率	売上構成比 (2016年3月期)	生産		販売・ サービスエリア	アライアンス
				機器	試薬		
ヘマトロジー (血球計数)	3,100	6%	63.1%	●	●	グローバル	Roche
血液凝固	1,800	5%	17.4%	●	○	グローバル	Siemens
尿 うち尿沈渣	1,000 320	6%	6.9%	●	●	グローバル	栄研化学 bioMérieux
免疫	18,000	6%	3.1%	●	●	アジア	—
生化学	7,400	5%	1.4%	○	●	アジア	日本電子 古野電気
その他 (遺伝子、血糖など)	21,700	—	8.1%	●	●	—	—
検体検査市場	53,000	6%	—	—	—	—	—

(注) 当社推定

●自社製品 ○アライアンス

ヘマトロジー市場シェア



シスメックスの主要検査分野

ヘマトロジー（血球計数）検査
赤血球や白血球などの数や種類、大きさを測定・分析する検査。
[貧血、白血病、血小板減少症など]

血液凝固検査
血漿を検査し、血液を固めて傷口をふさいだり、血栓を溶かす働きを調べる検査。
[出血性疾患（血友病など）、血栓性疾患（深部静脈血栓症など）]

免疫検査
ウイルス、ホルモン、タンパク質などの状態を調べ、病気の原因や種類などを判定する検査。
[感染症（肝炎、エイズ）、がん、アレルギーなど]

生化学検査
代謝に関わる臓器の状態を、糖や脂質、タンパク質などの成分から調べる検査。
[糖尿病、動脈硬化、肝機能障害、腎機能障害など]

ライフサイエンス

- リンパ節転移検査
がん細胞のリンパ節への転移を調べる検査。
- 遺伝子検査
遺伝子の情報を解析して、遺伝子に関わる疾病の発病可能性や医薬品の適合性などを診断する検査。

尿検査
尿中の糖・タンパク質・血液の有無を調べ、尿路系結石の有無、腎臓の機能や糖尿病罹患の有無を調べる検査。

主な検査分野と製品

ヘマトロジー(血球計数)検査

ヘマトロジー検査は、血液中の赤血球や白血球などの数を測定することにより、精密な検査が必要か不要かを判断するためのスクリーニング検査のひとつです。ヘマトロジー検査は機器に加え、希釈液、染色液などの専用試薬が継続的に使用されます。

シスメックスは、基礎的な項目を測定できる白血球3分類モデルから、使用する試薬数が多く高い臨床的意義を提供できる白血球5分類モデル、さらに、大規模施設で大量検体を高速処理できるシステム製品まで幅広いラインアップの製品を揃えています。

近年は欧米の競合メーカーに加え、新興国メーカーなどの新規参入もありますが、シスメックスは充実した製品ポートフォリオや独自の臨床的価値の提供、他社と差別化したサービス&サポートを行っています。その結果、2007年にヘマトロジー分野でグローバルシェアNo.1の地位を獲得し、現在も着実にシェアを伸ばしています。

なお、動物用検査分野においては、動物用自動血球分析装置をアイデックス社にOEM供給しています。



血液凝固検査

血液凝固検査は、血漿を試料として血液が固まる「凝固」と、血液の固まりを溶かす「線溶」の2つの機能を測る検査です。血友病の診断、血栓症の傾向や治療のモニタリング、さらに手術前に血液の固まりやすさを調べるためにも実施されます。

シスメックスは、1995年にシーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社(当時デイド・ベアリング社)と業務提携し、血液凝固製品の相互供給により販売・サービス&サポートの強固な協力関係を構築しています。現在、血液凝固分野では、両社合わせて世界No.1のシェアを占めています。



CS-5100™

尿検査

尿検査は、尿中の糖・タンパク質・血球の有無などを調べる検査のことです。試験紙を尿に浸し尿中の糖やタンパク質・血液の有無を分析する「尿定性検査」と、尿に含まれる血球や細胞などの有形物を分析する「尿沈渣検査」の2種類に大きく分けられます。

シスメックスは、尿沈渣検査分野において世界で初めてフローサイトメトリー法を利用した尿中有形成成分分析装置UFシリーズを発売しており、世界シェアNo.1を獲得しています。さらに2016年1月には、栄研化学株式会社との業務提携により尿定性分析装置をポートフォリオに加え、多様な尿検査のニーズへの対応が可能となりました。



UD-10™ UF-5000™ UC-3500™ (海外のみ販売)



試薬

ライフサイエンス

シスメックスが開発したOSNA法による、乳がんをはじめとするリンパ節転移迅速検査システムの市場導入を進めています。

また、血液中に含まれるごくわずかな遺伝子を検出するBEAMing技術などを活用して、がんの早期発見や再発のモニタリング、抗がん剤の効果モニタリングなど、新しい検査の創出にも取り組んでいます。



RD-100i™



リノアンブ™BC (試薬)

免疫検査

免疫検査は、血液が沈殿した後の上澄み部分である血清を試料として、抗原抗体反応を利用し、HIV・肝炎ウイルスなどの有無やがんの罹患を調べる検査です。検査には専用試薬が使用されます。シスメックスは、独自の試薬ラインアップを充実させるとともに微量の検体で最高水準の感度・迅速測定を実現した全自動免疫測定装置HISCL™シリーズを日本および中国を中心としたアジアに展開しています。



HISCL™-5000

生化学検査

生化学検査は、血液の血清・血漿中の酵素・糖・タンパク質を化学的に分析することで、体の栄養状態や肝臓・腎臓の機能、高脂血症や動脈硬化症などの罹患を調べる検査です。

シスメックスは日本電子株式会社および古野電気株式会社と生化学自動分析装置の販売に関する契約を締結しており、中国を含むアジアにシスメックスのネットワークを活用して販売しています。



試薬

その他

採血せずにヘモグロビン推定値を測定できる健康モニタリング装置は、アスリートのコンディション管理などに活用されています。



ASTRIM FIT™

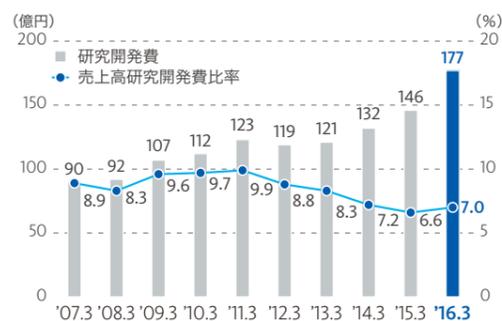
研究開発

幅広い独自技術に加え、世界の研究機関との共同研究により成長の可能性を広げています。

「世界初」の技術を開発

シスメックスの独創的な研究開発は、1963年の国産初となる自動血球計数装置「CC-1001」の実用化の成功に始まり、その後も検体検査領域でさまざまな「世界初」の技術を開発してきました。現在、シスメックスの事業領域はヘマトロジー（血球計数）分野から検体検査全般へと拡大しており、個別化医療を実現する新たな診断技術の創出にも取り組んでいます。

研究開発費/売上高研究開発費比率



シスメックスは技術力を基盤として成長してきた企業です。研究開発を成長の源泉と位置付け、積極的に投資を行っています。その結果、2016年3月期の研究開発費は177億円(売上高研究開発費比率7.0%)となりました。

血液などを分析する 3つの技術プラットフォームを保有

シスメックスは、ミクロの世界を精査する検体検査の可能性を追求し、幅広い技術を融合させることにより、粒子計測技術や流体制御技術、検出技術などを確立してきました。現在、シスメックスは遺伝子、細胞、タンパクを測定する次世代の高感度な技術プラットフォームを有していますが、個別化医療の実現に向けて、独自の技術に加え、さらなる技術の拡充を図るためにM&Aやアライアンスも積極的に行っています。その一環として、2013年にはドイツのアイノスティクス社、バルテック社を子会社化しました。

シスメックスの技術プラットフォーム



※1 PCR: 少量DNAを大量に複製する、遺伝子増幅技術の一つ。

※2 FCM: 微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して、個々の粒子を光学的に分析する手法のこと。主に細胞を個々に観察する際に用いられる。



さまざまな技術の融合を生み出す 研究開発体制

常にお客様の声を製品に活かしていくために、機器、試薬、ソフトウェアなどの技術を融合し製品開発に取り組んでいます。研究開発の中核拠点であるテクノパークでは、電気、機械、生物、化学、ITをはじめとする多彩な分野の研究者、技術者が活発なコミュニケーションを図りながら、新技術の創出と融合を目指しています。また、米国やドイツ、中国などにも研究開発拠点を設置し、グローバルな研究開発体制を構築しています。

さらに、独自の技術プラットフォームの拡充に加え、オープンイノベーションにより、国内外の研究機関や大学、医療機関とのコラボレーションを促進しています。この活動により、新たな診断項目の候補を取り入れ、いち早く先進的で価値の高い診断技術・診断薬として完成させています。この取り組みを加速させるため、2015年にはテクノパーク内に、高機能・高性能な実験設備を備えたシスメックスオープンイノベーションラボを開設しました。

グローバル市場での競争優位性を高める 知的財産活動

シスメックスは、知的財産活動の考え方を制定し、発明の発掘活動、知的財産権の取得、第三者の保有する知的財産権の調査などをグローバルに実施しています。また、研究開発部門と一体となってリエゾン機能の強化や知的財産活動に対する意識の向上、特許表彰制度や特許実績報酬制度の充実による研究開発者のモチベーション向上に努めています。

なお、近年シスメックス製品を模倣した試薬が、新興国で発見されています。検査結果の信頼性を確保するため、適正な試薬をお使いいただけるよう取り組んでいます。

オープンイノベーションを推進



生産

高品質を追求した機器生産体制と 安定供給をグローバルに実現する試薬生産体制を 構築しています。

機器生産は「メイド・イン・ジャパン」で 高い品質を実現

「メイド・イン・ジャパン」によるシスメックス製品の品質は、今や世界中から信頼の証として評価されています。

私たちがお届けしている検査機器には非常に高い品質が要求されますが、複雑で精密な製品であるため、機械による生産の自動化が難しい部分が多くあります。そのため機器生産においては、人の作業をサポートする最先端の生産技術や品質管理技術を導入し、正確かつ効率よく生産する体制を構築しています。

また、世界トップクラスの技術力を持つ日本のサプライヤー様との協力関係を構築することで、材料や部品レベルから高品質を実現しています。

このように機器については日本で生産^{*}することで、高品質・高付加価値の製品を世界中のお客様にお届けしています。

※シスメックス パルテックの製品はドイツにて生産

新たな機器生産の基幹工場「アイスクエア」 を設立

さらなる機器の需要増加に備え、機器生産能力を大幅に向上させるため、新たな基幹工場として「アイスクエア」を2014年6月に設立しました。これにより、従来の加古川工場と国内関係会社2工場とを合わせ、グループの機器生産能力を従来の3倍に増強しました。

アイスクエア内には倉庫を新設し、生産から出荷までを一貫して実施することで、お客様に製品をお届け

するまでのリードタイムの短縮や物流コストの削減を実現しています。また、海外への出荷については、工場内でコンテナ積載、通関手続きまでを一貫して行い、すべてのお客様のもとへ製品をより早くお届けするとともに、ロジスティクスの効率化を図っています。

さらに機器生産量の約9割が海外向け製品であることから、各国の法規制に適合した品質保証体制、環境保全体制を整備しています。



3Dムーブマニュアルを利用した生産



先進の技術が支える シスメックス独自のものづくり体制

シスメックスは、従来よりIT（情報技術）を活用した独自の生産支援システムを構築し、技術が人をサポートする仕組みを取り入れています。例えば、独自に開発した生産活動支援システム「Smart Pro」では、作業支援や工程管理、品質管理に加え、作業状況や作業人数など、工場の全ての状況をリアルタイムに把握することができ、生産活動全体をコントロールすることができます。また、機器組立の作業手順を3D（立体）動画で表示する「3Dムーブマニュアル」を導入するなど、人が行う作業をITでサポートすることで、品質と生産性の向上に高い効果を発揮しています。

機器は日本で生産し世界各国に供給
試薬はグローバルな生産体制を構築



安定供給を実現する グローバルな試薬生産体制

機器の設置台数の増加とともに、試薬への需要も高まっています。シスメックスは日本国内に2カ所、海外では6カ国に計7カ所の試薬生産工場を有し、各地域の需要に応じて安定した供給を行っています。また、今後のグローバルな需要増加に対応するため、各地域の試薬生産工場を整備・拡張するなど、体制を強化しています。2012年には中国、2014年にはシンガポール、さらに2015年にはドイツの生産工場を拡張しました。アメリカにおいても試薬生産エリアの拡張を進め、2017年9月からの本格稼働を目指しています。

これらの試薬生産工場の拡張に際しては、高品質・高効率なものづくり、将来の生産品目拡大、地球環境への配慮をコンセプトとしています。

販売・サービス&サポート

190カ国以上のお客様に質の高い 製品・サービス&サポートをお届けするための 体制を構築しています。

信頼と安心をお届けするシスメックスの 販売・サービス&サポート

検査の現場を支えるシスメックスの役割は重要です。検査が止まると、医師は患者さんの診断を行うことができなくなります。このような事態の発生を防ぐために、シスメックスは製品の販売からアフターサービス、学術情報提供までサポートし、世界中のお客様に信頼と安心をお届けできるように活動しています。その結果、シスメックス製品およびサービス&サポート活動は、顧客満足度調査において高い評価を受けています。

また、お客様からのお問い合わせ内容を世界中で共有し、サービス&サポートの質向上はもちろん、研究開発部門へフィードバックすることにより、今後の製品開発にも役立てています。

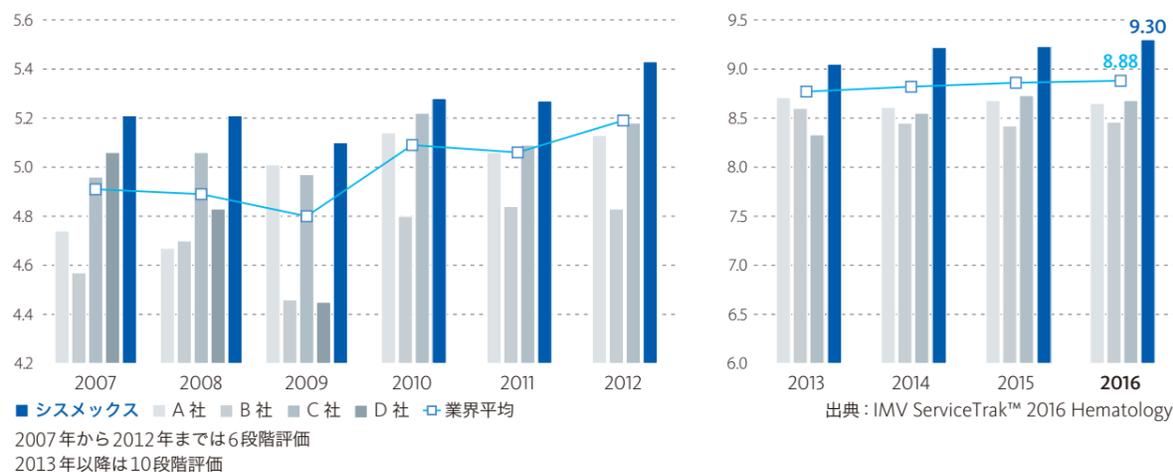
地域の特性に応じたグローバルな 販売・サービス&サポート体制を構築

1991年に英国現地法人を設立して以来、直接販売・サービス&サポート体制をグローバルに拡大しており、販売からアフターサービスまでお客様の要望にきめ細かくお応えしています。また、アライアンスなどによるネットワークを活用した間接販売により、製品のグローバル展開を加速させています。

さらに、地域に応じた提案を行っており、検査の需要が急増している新興国においては、高性能製品の性能や操作性を継承した小型製品を販売するなど、各地域のニーズにあった製品・サービスをお届けしています。専門性の高い検査が求められている先進国においては、機器・試薬だけではなく、より効率的な検査に向けて、検査室全体に対する提案活動も行っています。

米国顧客満足度調査

サービス全体に対する顧客満足度において、シスメックスは10年連続最高点を獲得



安心して検査ができる環境を提供

シスメックスは、市場に密着したサービス&サポート体制を構築しています。お客様からのシスメックス製品に関するお問い合わせ、トラブルなどのサポートは、カスタマーサポートセンターが365日24時間サポート体制*で対応しています。さらに、学術的なお問い合わせについても豊富な専門知識を持つ専任スタッフが対応しています。

また、日本、米国、中国、ドイツ、韓国にカスタマーサポートセンターを開設し、必要な場合にはサービスエンジニアが直接お客様を訪問しています。

加えて、リアルタイムでお客様の機器の精度管理と動作環境の自動監視を行うネットワークサポートサービスであるSNCS™(Sysmex Network Communication Systems)をグローバルに展開しており、多くのお客様にご利用いただき、高い評価を得ています。SNCS™は、機器の状態をリアルタイムに把握することで、エラーの発生前に察知し、遠隔操作により機器の診断・メンテナンスを可能にするなど、検査ができなくなるダウンタイムの時間短縮に貢献します。現在、先進国に加え、

アジアなどの新興国でも加入施設が順調に増加しています。

※特定の契約を締結いただいているお客様に限ります。

よりよい検査結果をお届けするために 新たな付加価値を提供

高品質な医療サービスの提供には、お客様にシスメックスの製品について深くご理解いただくことが重要です。そのため、シスメックスは機器の正しい操作方法やデータ解析などについて、お客様にお伝えするだけではなく、実際に機器を使用したトレーニングを実施しています。

また、シスメックスは世界各地で学術セミナーなどを開催し、医師や検査技師に血液学に関する最新情報を提供することで医療の質向上に貢献しています。日本では1978年から毎年学術セミナーを開催し、中国、タイ、インドネシアなどアジア各国においても定期的にセミナーを開催しています。

ネットワークサポートサービス SNCS™



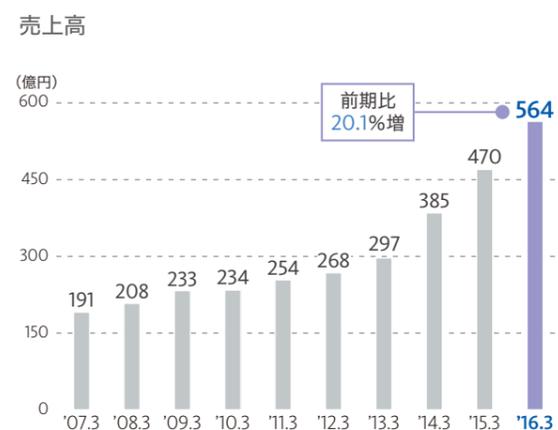
所在地別事業概要

米州

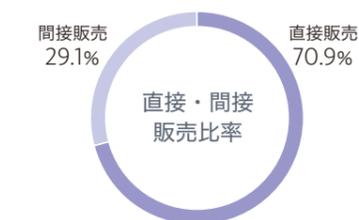
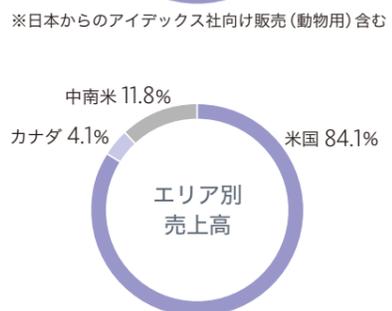
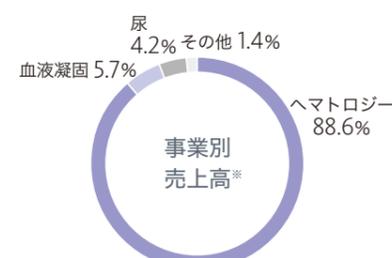
北米においてヘマトロジー分野で高いシェアを獲得。
中南米では拠点整備などにより、さらなる成長を目指しています。



2016年3月期概況



2016年3月期1USD=120.1円 (前年同期1USD=109.9円)



- ▶ 売上高は、顧客満足度の高いサービス活動やXNシリーズの競争力により、機器に加え試薬およびサービスが伸長し大幅増収
- ▶ 営業利益は、前期のサービス繰延収益の取崩および米国における販売・サービス活動強化による費用増などが影響し減益
- ▶ 主なエリア別の状況
 - 米国では、大型案件獲得によるヘマトロジー分野のシステム製品売上増加などにより増収
 - 中南米では、メキシコの政府大型案件獲得などがレアル安の影響を補い微増



成長の軌跡

2003年に米国において直接販売を開始し、その後、先進的なサービスやソリューション提案により、高い顧客満足度を獲得し、売上・シェアともに拡大しています。また、カナダでも2007年に現地法人を設立し、直接販売を開始しました。中南米ではアライアンスを

通じて販売・サービス網を確立しており、主要国の拠点整備を推進し代理店サポートを強化しています。試薬については、米国とブラジルの2カ所で生産していますが、さらなる需要拡大に備え、2017年の完成を目指し米国試薬生産工場の拡張を進めています。

市場概要

北米

- 特徴：
- ・世界最大の市場
 - ・医療保険制度改革により被保険者が増加
 - ・医療費の高騰、医療ニーズの多様化、高度化が進展

中南米

- 特徴：
- ・経済成長にともない医療ニーズが拡大
 - ・人口約6.2億人

取り組み

- サービス&サポート向上のためオンラインでのサービス活動を展開(SNCS™、バーチャルトレーニングなど)
- 米国西海岸エリアの販促強化のため、オフィス開設
- 中南米33カ国全域で代理店と契約し、販売・サービス&サポート網を確立
- ブラジルやメキシコなど主要国で拠点を整備

高い顧客満足度を実現する先進的なサービス&サポート
広大な北米では、お客様は各地に点在しています。そこで、お客様がどこにいても安心して製品をお使いいただけるよう、ITを利用したサービス&サポートを充実させています。例えば、シカゴ近郊にある統括現地法人のトレーニングスタジオから機器の操作方法、修理方法をライブ中継するサービスなどを提供しています。



さらなる成長に向けて

北米において先進的なサービス&サポートの提供や米国西海岸エリアでの販売・サービス体制の強化により、ヘマトロジー分野のさらなる成長を目指します。また、今後の成長に向けて、血液凝固・尿分野の

新製品を市場に導入し、競争力を高めていきます。中南米においては、今後の経済成長にともなう市場拡大に対応するため、主要国において拠点を整備することにより、代理店サポートをさらに強化していきます。

所在地別事業概要

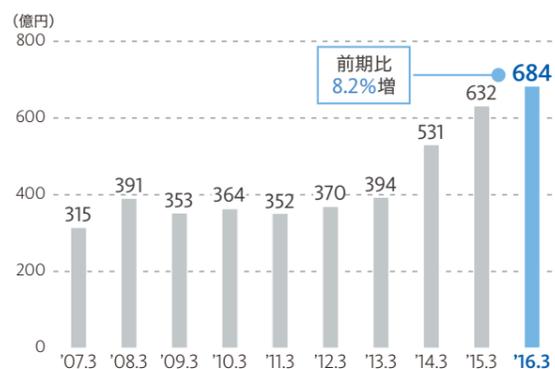
EMEA(欧州、中東、アフリカ地域)

先進国、新興国など100カ国以上に展開。
地域の特徴に応じた販売・サービス&サポート体制を構築しています。



2016年3月期概況

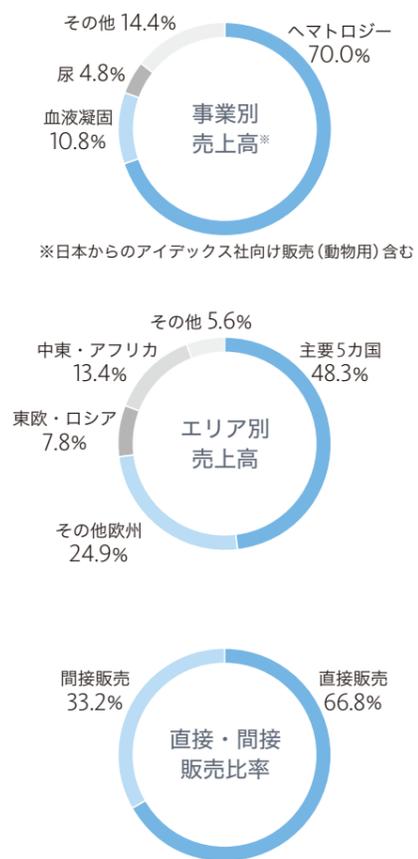
売上高



営業利益



2016年3月期1EUR=132.6円 (前年同期1EUR=138.8円)



- ▶ 売上高は、主要5カ国に加え、中東、ロシアなど新興国を含む全地域で増収
- ▶ 営業利益は、グループ間取引価格の見直しおよびシスメックス パルテック、シスメックス アイノスティックスの営業費用増加により減益
- ▶ 主なエリア別の状況
 - 主要5カ国では、イタリア、スペインなどで大型案件を獲得
 - その他欧州では、大型案件を獲得したデンマークなどで増収
 - ポーランドおよび大手検査センター案件を獲得したロシアにおいてヘマトロジー分野が伸長し増収
 - 中東・アフリカでは、サウジアラビアにおける保健省管轄施設向け入札獲得などにより増収



成長の軌跡

EMEAでは、1972年にドイツに駐在所を設立し、代理店を通じて販売エリアを拡大してきました。さらに、1991年には海外で初となる直接販売をイギリスで開始。市場の成長が期待できる国や地域に現地法人

を設立し、販売・サービス体制を強化してきました。また、EMEAにおける試薬の需要増加に対応するため、2015年にドイツの試薬生産工場を拡張し、安定的に試薬を供給できる体制を構築しています。

市場概要

先進国

地域：主要5カ国（ドイツ、イギリス、フランス、スペイン、イタリア）、その他欧州

- 特徴：・医療ニーズの多様化、高度化が進展
・医療費増加の抑制が求められる中、一部では検査室の統廃合が推進され、効率化ニーズが拡大

新興国

地域：東欧・ロシア、中東・アフリカ
特徴：・経済発展とともに医療基盤の整備が進行
・人口約17億人

取り組み

- お客様の多様な課題を解決するシステム化提案を実施し、検査の効率と質を向上
- 新たな成長が期待できるライフサイエンスやFCM事業などに投資
- 東欧やロシア、中東、アフリカなど、今後の成長が期待できる市場に拠点を整備
- 中小規模病院向けの小型製品など、新興国ニーズに対応した製品・サービスを展開

地域の特性に応じた体制の強化

EMEAは100カ国以上で構成され、言語・商習慣も多様であるため、各地域の特性に応じた体制を整える必要があります。そこで、お客様との関係構築や提案力強化に向けて拠点を整備しています。近年では新興国を中心に2014年にトルコ、2015年にはガーナに現地法人を設立し、EMEA域内における拠点数は27社となりました。



シスメックス ウェストアンド セントラルアフリカ (ガーナ)

さらなる成長に向けて

医療費抑制や検査室の統廃合が進む先進国に対し、シスメックスは検査室の効率化・付加価値を高める提案を推進しています。また、新興国においては販売・サービス体制の整備を継続し、事業を推進しています。

さらに、ライフサイエンスやFCM事業の研究開発および生産などの重要な拠点と位置付け、事業を加速させていきます。

所在地別事業概要

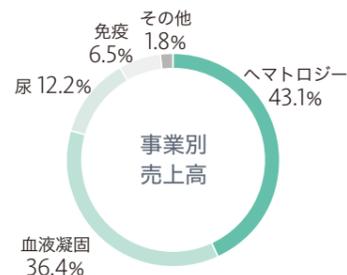
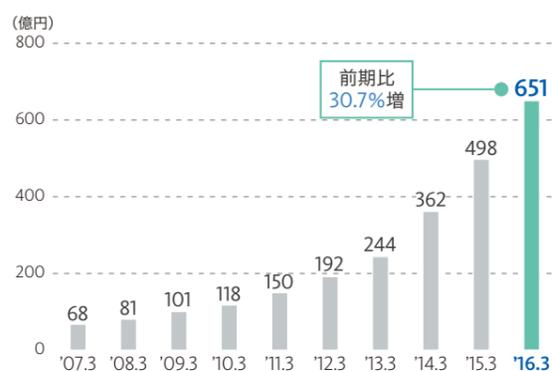
中国

他社に先駆けて事業基盤を構築。
検体検査領域におけるリーディングカンパニーとしての地位を強固にしていきます。

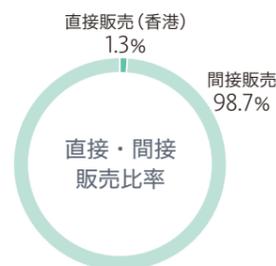
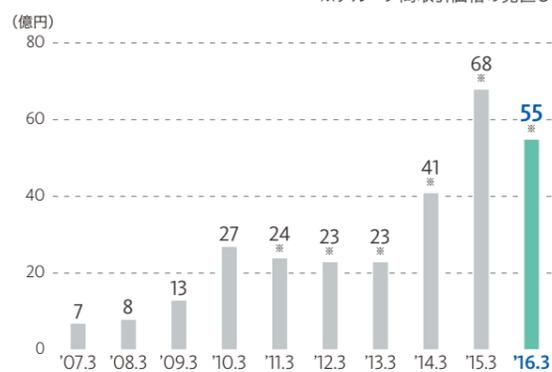


2016年3月期概況

売上高

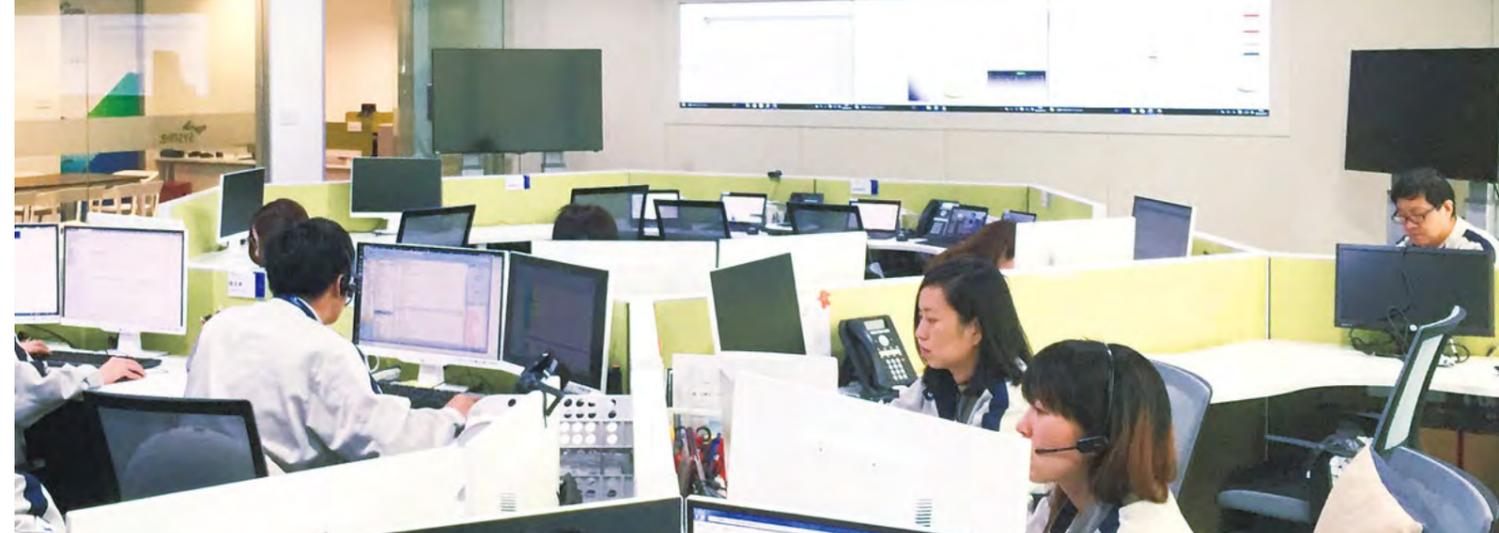


営業利益



2016年3月期1CNY=18.9円 (前年同期1CNY=17.8円)

- ▶ 売上高は、ヘマトロジー・血液凝固・免疫分野の売上が伸長し大幅増収
- ▶ 営業利益は、グループ間取引価格の影響および免疫分野の活動強化による販売管理費の増加もあり減益
- ▶ 主な分野別の状況
 - ヘマトロジー分野は、システム提案によるXNシリーズの販売好調により増収
 - 血液凝固分野は、CSシリーズの販売好調および線溶系項目試薬の需要拡大により、大幅増収
 - 尿分野は、新製品への移行期の影響などにより横ばい
 - 免疫分野は、2015年3月期より販売を開始したHISCL™シリーズの販売拡大により増収



成長の軌跡

シスメックスは、中国市場の成長性にいち早く着目し、1995年の済南試薬生産工場設立や1996年の上海駐在員事務所開設など、他社に先駆けて体制整備に取り組み、強固な事業基盤を構築してきました。2012年には検査の需要拡大に備えて試薬生産工場

を拡張し、当時の約5倍の生産量に対応可能な体制を整えました。また、学術セミナーを積極的に開催するなど、検査の質向上にも貢献しています。

さらに、2015年には免疫分野にも参入するなど、事業ポートフォリオの拡充にも努めています。

市場概要

特徴：・地域により商習慣が多様

・中国政府は、医療の質向上に向けたインフラ投資を実施

・医療需要の拡大にともない、検査の効率化および自動化へのニーズが高まり、高性能製品への切替が進展

・人口約14億人

取り組み

- 200社以上の販売代理店と連携し、事業基盤を構築
- ヘマトロジー、血液凝固、尿分野に加え、免疫分野にも進出

- 高性能な製品が必要とされる市場において優位性を確立

免疫分野への進出

本拠地がアジアであるという地理的な優位性を活かし、市場特性を掴んだ販売体制を整備しています。主力のヘマトロジー、血液凝固、尿分野で培ったブランド力を活用し、免疫分野でも積極的な展開を開始しました。現在、高感度や迅速性を特長とする全自動免疫測定装置 HISCL™シリーズの販売を推進しています。今後は、他社にはない独自の測定項目の拡大を進め売上拡大を目指します。



さらなる成長に向けて

中国市場では、ヘマトロジー、血液凝固、尿分野に加え、免疫分野の販売、代理店サポートを強化することにより、検体検査領域での一層の優位性向上を図ります。

また、学術啓蒙活動などにも積極的に取り組み、シスメックスブランドのさらなる向上・浸透を通じて市場でのプレゼンスを高めていきます。

所在地別事業概要

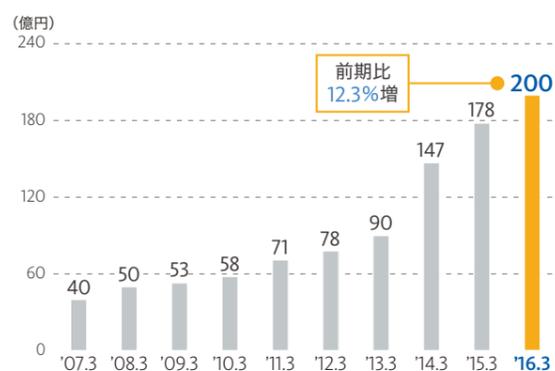
アジア・パシフィック

約24億人の人口を抱えるアジア・パシフィック市場。
新興国を中心とした学術啓蒙活動などを通して、検査の質向上に貢献しています。

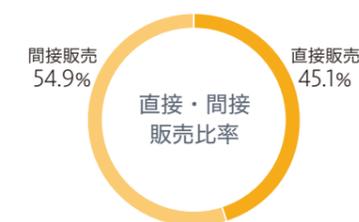
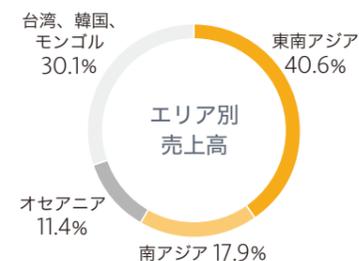
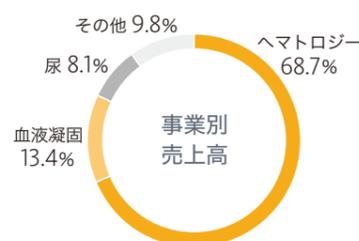


2016年3月期概況

売上高



営業利益



▶ 売上高は、インド・インドネシア・韓国などにおいてヘマトロジー分野を中心に伸長し増収

▶ 営業利益は、増収効果により増益

▶ 主なエリア別の状況

- 東南アジアでは、インドネシア・ベトナム・フィリピンにおいて、ヘマトロジー分野を中心に伸長し増収
- 南アジアは、インドでヘマトロジー・生化学分野が伸長し、バングラデシュでも大幅伸長し増収
- オセアニアでは、オーストラリアにおいて、前期に引き続き今期もヘマトロジー大型案件を獲得し微増
- 韓国では、ヘマトロジー分野の機器・試薬の売上が伸長し増収



成長の軌跡

1994年のシンガポール駐在員事務所開設を皮切りに、アジアに本社を有する立地上の優位性を活かし、他社に先駆けて広範囲に拠点を整備してきました。直近では2015年にミャンマーに支店を開設し、サービス&サポートを強化するなど、業界トップクラスの販売・

サービスネットワークを整え、アジア・パシフィック地域におけるプレゼンスを確立しています。

また、2014年にはシンガポール試薬生産工場を移転、拡張し、インドの試薬生産工場と共に地域内のさらなる試薬需要増加への対応を着実に進めています。

市場概要

- 特徴：
- ・先進国と新興国があり、言語・商習慣が多様
 - ・先進国では、医療ニーズの多様化、高度化が進展

- ・新興国では経済発展にともない医療や検査の需要が拡大
- ・各国で政府主導の医療インフラ整備が進展
- ・人口約24億人

取り組み

- 現地法人の設立や代理店の活用など、地域に最適な販売・サービス体制を構築
- 学術啓蒙活動を各国で展開
- インドでは血液凝固や尿分野で直接販売を開始
- アジア地域でのブランド力を活かし製品ポートフォリオを拡大

新興国の検査の質向上を目指し、学術啓蒙活動を強化

新興国では、正確な検査結果を保証するための精度管理や、さらなる検査の質向上が必要なケースがあります。シスメックスは、現地の政府や学会とともに外部精度管理[※]などを実施し、検査結果の標準化に貢献しています。また、それぞれの国や地域の特性に応じた学術資料の提供や、学術セミナーの開催を通じて、検査の重要性を啓蒙する活動にも取り組んでいます。



2015年
フィリピンでの
学術セミナー
(853名が参加)

※外部精度管理：医療施設間での検査結果の違いを確認し、是正するための活動。基準器で設定した目標値と各医療施設の測定結果の集計を比較し、各医療施設における検査機器などの調整を行う。

さらなる成長に向けて

今後、経済成長とともに成長が期待される国が多数あります。そこで、シスメックスは、直接販売体制の強化や各国政府と連携した学術啓蒙活動の強化によりヘマトロジー分野での着実なシェア拡大を進めてい

きます。また、血液凝固や尿、免疫分野における新製品の市場導入を進めることにより、製品ポートフォリオの拡充を目指します。

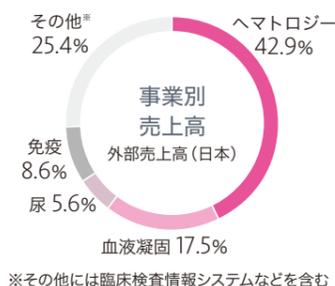
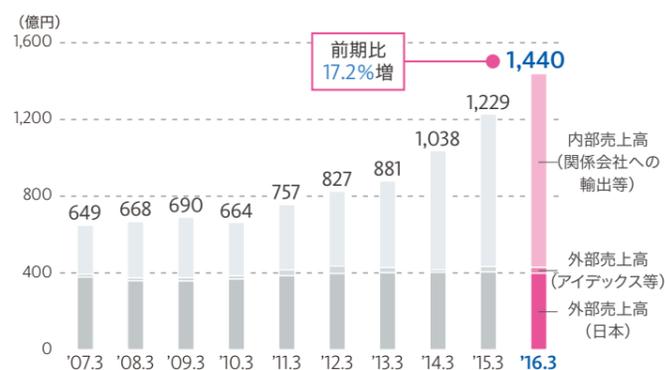
所在地別事業概要

日本 (海外関係会社への輸出含む)

検体検査領域のリーディングカンパニーとして、検査室全体の高度化や効率化、新しい検査項目の創出に取り組んでいます。

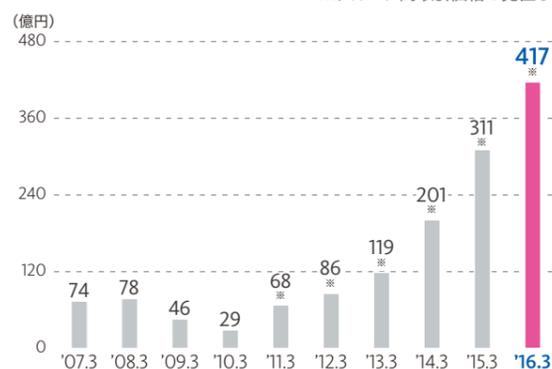
2016年3月期概況

売上高 (内部売上高を含む)



営業利益

※グループ間取引価格の見直し



2016年3月期1USD=120.1円 (前年同期1USD=109.9円)
 2016年3月期1EUR=132.6円 (前年同期1EUR=138.8円)
 2016年3月期1CNY=18.9円 (前年同期1CNY=17.8円)

- ▶ グループ関係会社(海外)向けの内部売上高の増加およびグループ間取引価格の見直しにより、日本所在地としては増収増益
- ▶ 日本(外部売上高)は、免疫分野を中心に試薬売上が伸長したものの、機器売上が減少し微減
- ▶ アイテックス社向け機器売上高は好調に推移し増収



成長の軌跡

1963年に国産初となる自動血球計数装置を開発し、1990年代にはシステム製品を発売するなど、シスメックスは検査の発展に寄与してきました。また、ヘマトロジー分野を中心に血液凝固、尿、免疫、ライフサイエンスへと事業分野の拡大に取り組んできました。さらに、ネットワークサポートサービスSNCS™などによるサービス&サポート体制の充実を図っています。

また、研究開発と生産の中核拠点として新しい価値の創造にも取り組んでいます。機器については日本で生産した高品質な製品を海外に輸出し、世界各地のさまざまなお客様へお届けしています。

市場概要

特徴：・ 少子高齢化が進展
 ・ 医療ニーズの多様化・高度化

・ 医療費削減が求められ、個別化医療や予防医療への注目が上昇

取り組み

- 検体検査の総合サプライヤーとしてヘマトロジー分野の他、幅広い分野の製品を提供するとともに、検査室全体の効率化を実現するソリューション提案を推進
- 免疫分野など独自の新しい検査項目を開発

検査室全体の高度化・効率化を進めるソリューション提案を強化

シスメックスは、検査室のワークフローの最適化により、検査に要する時間の短縮化など付加価値を提案しています。これにより検査技師は、検査結果に、より詳細な情報を合わせて医師に提供することが出来ようになります。また、ITを利用して検査室のデータを管理することにより、複合的な判断や検証を行うとともに、医師に検査結果を迅速に伝えることが可能になります。



ワークフロー改善提案 (検査室イメージ)

さらなる成長に向けて

シスメックスは、日本市場における免疫事業の拡大に向けてユニークな測定項目の拡大や全自動免疫測定装置のHISCL™ブランドの浸透に取り組んでいきます。

また、研究開発および生産機能の中核拠点として、シスメックスグループのグローバルなビジネス展開を支えていきます。

コーポレート・ガバナンス

経営の健全性・透明性を高めることにより、 グループ全体の企業価値の最大化を目指しています。

経営体制

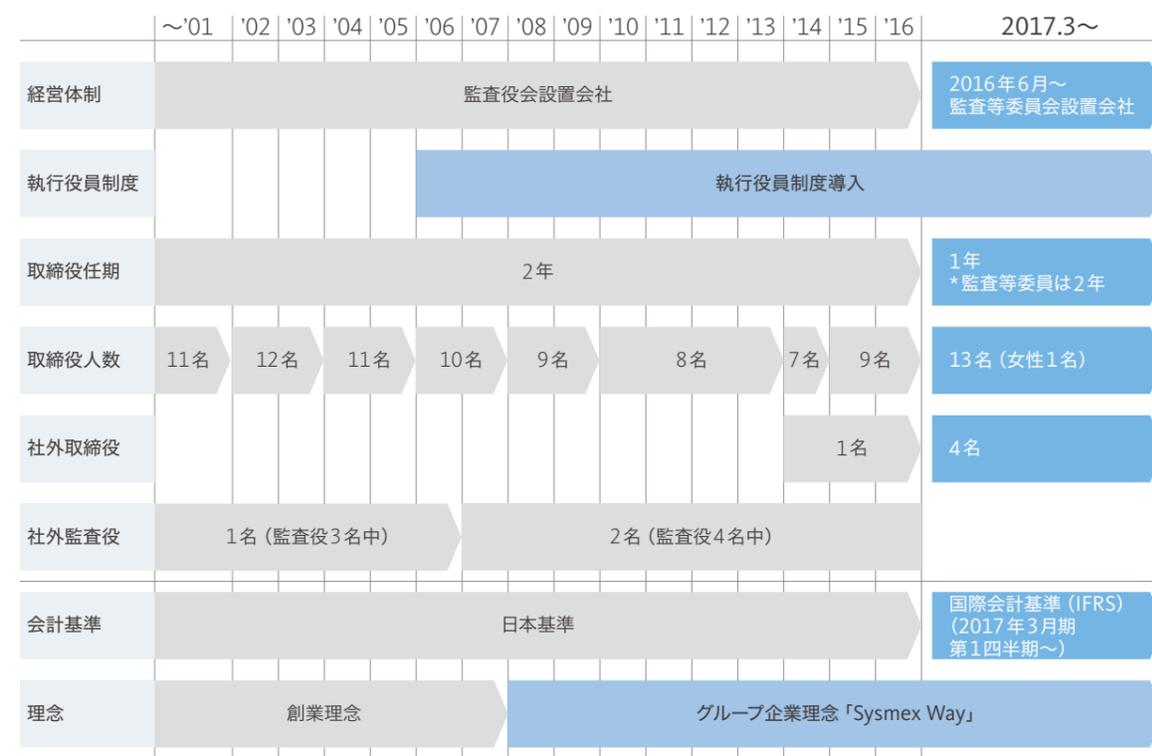
シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題のひとつとして位置づけています。グループ企業理念「Systemex Way」にもとづき、経営の健全性・透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させるための体制を採用しています。

2016年6月より「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」へ移行しました。監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つことなどにより、取締役会の監査監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させ、コーポレート・

ガバナンス体制の一層の充実を図っています。さらに、社外取締役の選任による取締役会の監査・監督機能の強化を図っています。

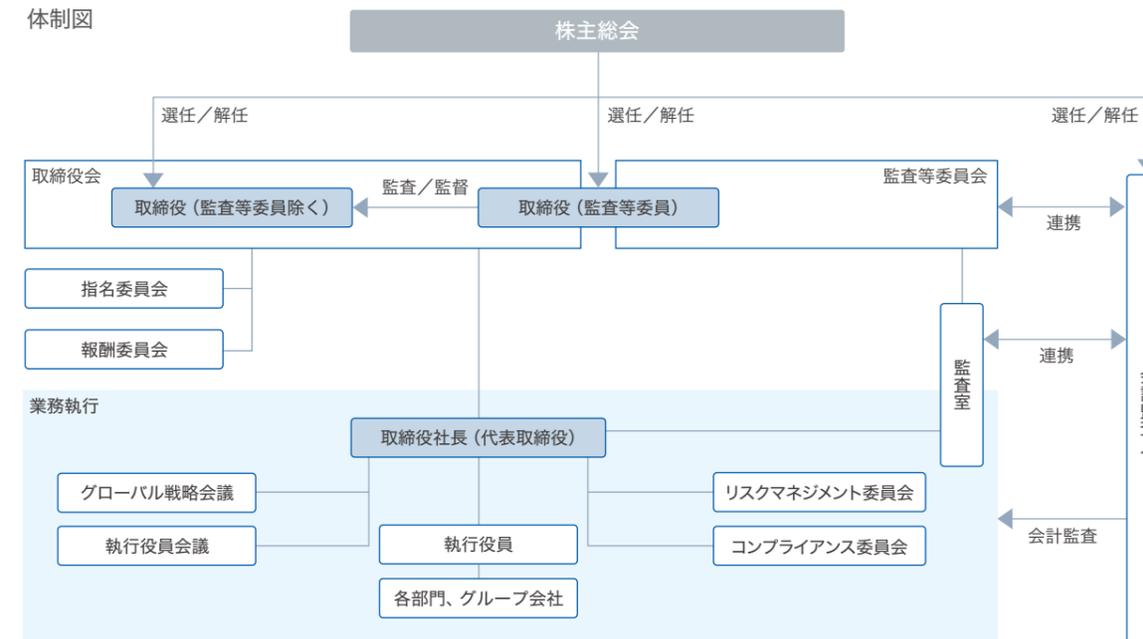
現在の経営体制は、取締役13名（うち社外取締役4名）、取締役のうち監査等委員3名（監査等委員のうち社外取締役2名）、執行役員19名（うち取締役兼任7名）にて構成されています。なお、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。

コーポレート・ガバナンスの進化



(注) 3月31日に終了した会計年度

体制図



会議名	内容	構成	2016年3月期 開催回数
取締役会	経営に関する重要事項を審議	取締役	14回 (出席率99.5%)
グローバル戦略会議	グループの経営の方向性や重要な戦略上の課題を審議	取締役社長と担当執行役員	12回
執行役員会議	取締役社長の意思決定のための諮問機関としてグループの業務全般にわたる重要事項を審議	取締役社長と執行役員	19回

監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員3名のうち2名が社外取締役です。監査等委員は、取締役会に加え、グローバル戦略会議および執行役員会議などに出席するなど、取締役の職務執行を適正に監視できる体制をとっています。また、監査等委員会は、内部監査部門の活動内容などを踏まえ、必要に応じ内部監査部門

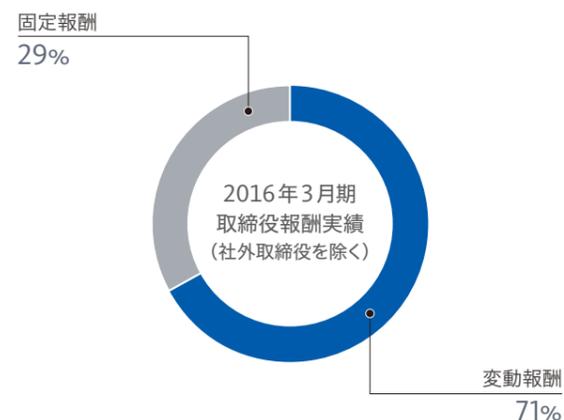
に対し指示できる体制をとっています。

なお、会計監査人とは、会計監査計画報告（年次）および会計監査結果報告（年次）の他、財務報告に係る内部統制監査実施など、必要の都度相互の情報交換・意見交換を行うなど連携を密に行っています。

コーポレート・ガバナンス

役員報酬(2016年3月期)

役員の報酬などの額またはその算定方法の決定に関する方針は、成果責任を明確にした業績連動型の報酬制度です。取締役の報酬を固定報酬と変動報酬に大別し、固定報酬については役位をもとに決定、変動報酬については成果に応じて配分しています(ストックオプション含む)。なお、監査役については固定報酬のみです。報酬額は報酬委員会にて審議した後、取締役会に上程し決定しています。



役員報酬の内容(2016年3月期)

役員区分ごとの役員報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く)	865	251	59	554	—	8
監査役*(社外監査役を除く)	36	36	—	—	—	2
社外役員	17	17	—	—	—	3

※2016年3月期まで監査役会設置会社

報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	報酬等の種類別の額(百万円)				報酬等の総額 (百万円)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
家次 恒	取締役	59	20	172	—	251

コンプライアンス

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」にもとづき、コンプライアンスを「法令遵守とともに、高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義しています。また、グループ全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめたグローバルコンプライアンスコードを制定し、教育、浸透を図っています。内容には、研究開発に関する倫理、贈収賄禁止、世界人権宣言など配慮すべき国際規範の支持や研究開発に関する考え方なども記載しています。また、社内外の環境変化などに対応するため、原則として2年に1度見直しを行うことを附則に明記しています。

貿易管理については、社内管理規程を制定し、管轄官庁である経済産業省に承認登録されています。さらにコンプライアンス委員会の下部組織として安全保障貿易管理委員会を設け、その社内管理規程にもとづいた、貿易管理の強化と輸出先や貿易貨物・技術の使用用途の確認を徹底しています。

グループ全体の安全保障管理体制を強化するために、海外の統括現地法人にERPシステム(統合基幹業務システム)と連携する管理システムを導入し、管理の徹底と効率化を推進しています。

コンプライアンス体制



リスクマネジメント

グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、最高責任者「リスクマネジメントオフィサー」を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置しています。リスクマネジメント委員会では、グループとして事業に与える影響が大きい重要リスクの特定や、各部門・関係会社が実施したリスク対策・モニタリング結果を継続して監視しています。

品質に関しては、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。品質マネジメントシステムについては、開発・生産機能を持つほぼすべてのグループ会社で国際規格ISO9001またはISO13485*に則ったマネジメントシステムを構築しており、グループ全64社中31社がISO9001、19社がISO13485の認証を取得しています。これらのマネジメントシステムが確実に運用されていることを確認するために主要なグループ会社の品質活動についてマネジメントレビューや品質監査を実施しています。全グループ従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした専門的な品質教育も実施しています。さらに、グループ全体で品質に関する情報を共有し、体制を強化するために、毎年本社であるシスメックス株式会社と各統括現地法人や関係会社から品質関連部門の担当者が参加する会議を開催しています。

情報開示に関しては、証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守することはもとより、独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報を積極的に開示するよう努めています。

※ISO13485：医療機器産業向けの品質マネジメントシステム規格

コーポレート・ガバナンス

企業価値向上のためのIR活動

シスメックスはIR活動を企業経営における重要な活動のひとつであると認識し、適宜適切な情報開示を行っています。さらに、株主および投資家の皆様との直接対話を通して、シスメックスに対する社外評価や要望を迅速に経営層へフィードバックする体制を整えています。

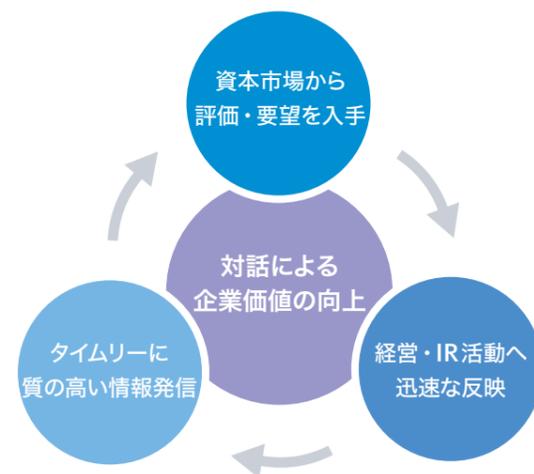
また、機関投資家およびアナリストの皆様とのミーティングでは、経営戦略やビジネスモデル、中長期経営計画に加え、研究開発、株主還元、資本政策などのテーマについて積極的に対話（エンゲージメント）を行っています。シスメックスは、神戸に本社を置く企業ですが、東京をはじめ米国、欧州およびアジア各国を訪問しIRミーティングを行っています。2016年3月期は延べ365件のミーティングを行いました。

その他、海外施設見学会や国内事業所見学会など、シスメックスの取り組みを直接ご覧いただく機会を設けています。

一方、個人の株主、個人投資家の皆様には、株主通信やウェブサイトの各種映像コンテンツなどを通して、わかりやすい事業内容の紹介に努めています。

説明会や株主通信においては、定期的にアンケートを実施し、その結果を経営層へフィードバックすることで、株主様や市場の評価を適切に経営へ反映しています。

シスメックスのIR活動の目的



主なIRイベント

イベント	内容
技術説明会	研究開発の進捗について研究開発部門責任者から説明
Sysmex IR Day (事業所見学会)	隔年開催 2014年は機器生産工場の見学および担当役員による生産体制や特長の紹介
海外施設見学会	隔年開催 実際に製品を利用いただいている病院などの施設の見学、および現地法人責任者による市況やシスメックスの強みなどの解説
個人株主様向け会社見学会	機器生産工場などの事業所見学
個人投資家様向け会社説明会	経営トップやIR担当者による国内主要都市での会社説明
IRミーティング	証券会社主催カンファレンスへの参加や米国、欧州、アジア各国での機関投資家訪問など、国内外の投資家、アナリストとのミーティング

積極的な情報開示

シスメックスは、決算説明会およびカンファレンスコールを開催しているほか、決算補足資料として業績を所在地別、事業別、品目別に開示するなど自主開示を積極的に行っています。また、技術説明会を毎年開催し、研究開発の進捗について研究開発部門責任者が説明することで、研究開発の成果ならびにシスメックスの将来性をお伝えしています。

また、2017年3月期決算から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。財務情報の国際的な比較可能性の向上により、株主・投資家の皆様の利便性を高めることを目的としています。

IR活動への社外からの評価

2015年には日本IR協議会主催の「IR優良企業大賞」を受賞するなど、シスメックスのIR活動は高い評価をいただいています。

今後も質の高いIR活動を目指し、社外への積極的な情報開示とともに社内へのフィードバックを行い、経営への反映につなげるべくIR活動に取り組んでいきます。



IR優良企業大賞
表彰式

2016年3月期の主な受賞(IR活動)

主催	受賞名
日本IR協議会	第20回「IR優良企業大賞」(応募企業263社のうち大賞は2社のみ)
日本証券アナリスト協会	証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定(平成27年度) 「業種別部門(医薬品)」1位 / 「個人投資家向け情報提供における優良企業」1位
Institutional Investor	「Institutional Investor 2016」の日本のヘルスケア・医薬部門において、「Best CEO」 「Best IR Professional」など5項目でランクイン

IRポリシー

1. IR活動の目的と基本姿勢

当社は、株主・投資家の皆様への説明責任(アカウンタビリティ)を果たし、当社経営、事業活動への正しい理解と信用を得るため、業績、財務内容、将来ビジョンや経営戦略を公平、迅速、正確、そして分かりやすく開示することを基本姿勢とします。

2. 情報開示の基準

当社は、証券取引に関する法令および証券取引所の定める適時開示規則などに従って情報を開示いたします。また株主・投資家の皆様に当社の理解を深めていただくため、適時開示規則に該当しない情報についても、公平かつ迅速な開示に努めます。

3. 情報開示の方法

適時開示規則に該当する情報は、東京証券取引所の提供するTD-NETにて公開しています。またTD-NETにて公開した情報は、当社ホームページにてできるだけ速やかに掲載します。さらに適時開示規則に該当しない情報についても当社ホームページに公開します。

4. 沈黙期間

当社は各四半期の期末日の翌日から各決算発表日までを沈黙期間としています。この期間中は、業績見通しに関する質問への回答やコメントを差し控えます。ただし、沈黙期間中に業績予想を大きく外れる見込みが出てきた場合は、適宜情報開示を行います。

取締役



家次 恒
代表取締役会長兼社長
1986年9月 当社入社、取締役
1990年3月 常務取締役
1996年2月 代表取締役常務取締役
1996年4月 代表取締役専務取締役
1996年6月 代表取締役社長
2013年4月 代表取締役会長兼社長(現任)



林 正好
取締役 専務執行役員
社長補佐
1972年2月 当社入社
1997年6月 取締役事業推進本部長
2005年4月 取締役執行役員
2007年4月 取締役常務執行役員
2011年4月 取締役専務執行役員(現任)



中島 幸男
取締役 専務執行役員
コーポレートスタッフ担当
1973年4月 当社入社
1999年6月 取締役経営企画本部長
2005年4月 取締役執行役員経営企画本部長
2009年4月 取締役常務執行役員
2013年4月 取締役専務執行役員(現任)



西浦 進
社外取締役 独立役員
1969年4月 東亜特殊電機株式会社
(現TOA株式会社)入社
1998年6月 TOA株式会社取締役
2004年10月 同社取締役常務執行役員
2008年6月 同社取締役専務執行役員
2010年6月 同社取締役専務執行役員退任
2013年6月 当社社外取締役(現任)



高橋 政代
社外取締役 独立役員
1992年10月 京都大学医学部附属病院眼科 助手、医学博士
2001年10月 京都大学医学部附属病院探索医療センター開発部 助教授
2006年4月 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
網膜再生医療研究チーム チームリーダー
2014年11月 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー(現任)
2016年6月 当社社外取締役(現任)



田村 幸嗣
取締役 常務執行役員
LSビジネスユニット担当
1990年9月 当社入社
2001年6月 取締役海外本部長
2005年4月 取締役執行役員
2009年4月 取締役常務執行役員(現任)



尾辺 和也
取締役 常務執行役員
海外事業担当
1991年4月 当社入社
1996年4月 トーア メディカル エレクトロニクス(ヨーロッパ)ゲーエムペーハー
(現シスメックス ヨーロッパゲーエムペーハー)社長
2002年10月 シスメックス コーポレーション オブ アメリカ(現シスメックス アメリカ インク)会長
2005年4月 執行役員 シスメックス アメリカ インク 副会長兼CEO
2009年6月 取締役執行役員
2013年4月 取締役常務執行役員(現任)



釜尾 幸俊
取締役(監査等委員)
1978年3月 当社入社
2013年4月 執行役員 経営管理本部長
2016年6月 取締役(監査等委員)(現任)



大西 功一
社外取締役(監査等委員) 独立役員
1971年7月 株式会社神戸製鋼所入社
2002年6月 同社執行役員
2004年4月 同社常務執行役員
2007年4月 同社専務執行役員
2010年6月 同社専務執行役員退任
2010年6月 日本高周波鋼業株式会社
代表取締役社長
2013年6月 同社相談役
2014年6月 当社社外監査役
2016年6月 当社社外取締役
(監査等委員)(現任)



梶浦 和人
社外取締役(監査等委員) 独立役員
1972年9月 等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所
1989年6月 サンワ・等松青木監査法人
(現有限責任監査法人トーマツ)
パートナー就任
2013年1月 有限責任監査法人トーマツ 退職
2016年6月 当社社外取締役
(監査等委員)(現任)



渡辺 充
取締役 常務執行役員
HUビジネスユニット担当
1980年4月 当社入社
2005年4月 執行役員研究開発企画本部長
2009年6月 取締役執行役員
2013年4月 取締役常務執行役員(現任)



浅野 薫
取締役 常務執行役員
研究開発担当
1987年8月 当社入社
2009年4月 執行役員中央研究所長
2011年4月 執行役員研究開発企画本部長
2013年4月 上席執行役員
2014年6月 取締役上席執行役員
2015年4月 取締役常務執行役員(現任)



立花 健治
取締役 常務執行役員
経営企画、事業戦略担当
1980年3月 当社入社
2011年4月 執行役員IVD事業戦略本部長
2013年4月 上席執行役員
2014年6月 取締役上席執行役員
2015年4月 取締役常務執行役員(現任)

社外取締役メッセージ

社外取締役 西浦 進



シスメックスの取締役会および執行役員会議では、攻めの姿勢を反映した前向きな議論が活発に行われており、的確に意思決定が行われています。その議論の中で、私は外部からの目として、特に成長実現のための様々な取り組み(M&Aやアライアンスなど)に対する投資効果や収益力がステークホルダーの期待にお応えできるかを重視しています。さらに、業績だけではなく企業として社会的責任を果たしているかどうか、コンプライアンスを遵守しているかなども注視しながら発言しています。

また、シスメックスは近年グローバル化、業容拡大が急速に進んでおり、海外売上が大きな割合を占めるグローバル企業です。今後、企業価値を継続的に向上していくためには、組織体制の変革や、世界で活躍できる人材のさらなる育成が必要不可欠になっています。そこで、社外取締役として、リスクマネジメントや内部統制システム、人材育成を重視して業務遂行していきたいと考えています。

社外取締役 高橋 政代



今回、社外取締役をお引き受けしたのは、世界に類のない新しいものを作り出し、医療の発展と患者さんの幸福を実現したいという私自身の気持ちとシスメックスの経営姿勢が一致したためです。シスメックスは、医療の発展に対して、創薬や治療開発のルールとは違う別の観点から貢献してきました。今は再生医療に関して新しい法律が出来るなど、従来の医療のルールや仕組みの欠点を打破していくことができるのではないかと期待がある中で、今後、シスメックスのこれまでの経験や業績、前向きな姿勢は大きな強みになると思っています。シスメックスの利益と患者さんの利益は一致させることが出来、世界で医療を支えているシスメックスがさらに発展することによって、ひいては世界の医療が良くなることに繋がると考えています。今後は社外取締役という立場からみて公正なガバナンスの一助となるとともに、新しい技術の取り入れや科学、医療の方向性について、アカデミアや医療現場から見た大きな流れの情報を提供し、積極的に意見を述べていきたいと思っています。

社外取締役(監査等委員) 大西 功一



私は長年製造業に従事してきた経験を活かして、コスト管理、品質管理、安全衛生、環境防災などの面に軸足を置き、特に内部統制やリスクマネジメントが十分かどうかを注視し、業務を遂行しています。特に、社外取締役として、社内の人にとっては常識になっていることでも、そこに当事者が気付きにくいリスク要因が隠れていないかを絶えず注視しています。

但し、監査のための監査に陥ると「角を矯めて牛を殺す」ことになり、シスメックスの長所である攻めの姿勢を損なう事になりかねないため、バランスに注意していきたいと思っています。

シスメックスは高い競争力を持つ事業を背景に増収増益を続けていますが、ライフサイエンスなど新しい分野への進出意欲が高く、成長拡大路線が徹底されているのが特徴です。

但し、結果が出ている時というのは地道なコスト管理や品質管理などへの努力を忘れる傾向になる事があるため、その点を注視していきたいと思っています。

社外取締役(監査等委員) 梶浦 和人



社外取締役・監査等委員をお引き受けするにあたり、これまで公認会計士として培ってきた独立不羈の精神にもとづき、公正不偏の姿勢でコーポレートガバナンスの実効性を一層向上させ、企業理念である「Sysmex Way」の実現に向けて業務を遂行したいと考えています。シスメックスは海外売上高比率の高さや、ヘマトロジーなどの事業でグローバルに高い競争力を持つという強みを持っていますが、会社が成長していく過程においては、グループ全体のコンプライアンス遵守や、リスクマネジメントを含む経営情報がタイムリーかつ正確に伝達される仕組みになっているかが重要になります。今後は、独立役員である社外取締役・監査等委員としての立場から、40年余における公認会計士としての知見およびグローバル企業に対する監査・指導経験を基に、経営効率の向上のための助言や、アカウンタビリティの向上および議論の活性化、モニタリング機能の向上を図る事により、経営諸活動の適法性および妥当性を注視していきます。

社外取締役選任理由

西浦 進

企業経営などの豊富な経験と幅広い見識を有しており、その経験や見識を当社の経営に活かしていただけるものと考えています。

高橋 政代

臨床医・研究者として先進医療、医療倫理などに関する豊富な知見と幅広い見識を有しており、その知見や見識を当社の経営に活かしていただけるものと考えています。

大西 功一

企業経営などの豊富な経験と幅広い見識を有しており、その経験や見識を当社の監査などに活かしていただけるものと考えています。

梶浦 和人

公認会計士としての専門知識・経験などを有しており、グローバル企業の指導や監査などの幅広い経験を通じて取締役会の健全性・透明性の確保や監査監督機能の充実などに貢献いただけるものと考えています。

執行役員



後列左より：Juergen Schulze、長尾 博司、大谷 育男、藤本 敬二、神田 博、John Kershaw、久保田 守
前列左より：浜口 行雄、合田 隆、石田 道明、山本 純三、松井 石根

石田 道明

上席執行役員
ICHビジネスユニット担当

合田 隆

上席執行役員
R&I事業、ソリューション推進担当

山本 純三

上席執行役員
生産SCM担当

浜口 行雄

執行役員
シスメックス国際試薬株式会社社長

松井 石根

執行役員
国内事業担当

藤本 敬二

執行役員
品質保証・薬事、グローバルサポート担当

大谷 育男

執行役員
人事総務本部長

神田 博

執行役員
ICHビジネスユニット
凝固プロダクトエンジニアリング本部長

長尾 博司

執行役員
経営管理本部長

John Kershaw

執行役員
President and CEO,
Sysmex America, Inc.

Juergen Schulze

執行役員
President and CEO,
Sysmex Europe GmbH

久保田 守

執行役員
LSビジネスユニット
ライフサイエンス
プロダクトエンジニアリング本部長

人材開発・育成

多様な人材の育成と、魅力的で働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

新たな価値の創造を支える人材開発

シスメックスは人材の多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力を発揮できる職場環境を整えています。また、自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

グループ全体でベクトルを合わせ、高効率でスピード豊かな事業活動を行うため、各地域・各部門でグループ企業理念「Sysmex Way」の理解・浸透活動を展開しています。活動の具体例としては、モチベーションアップにつながる「グループCEOアワード」を導入して、「Sysmex Way」を実践した個人、グループを表彰し、全社で情報共有しています。

また、シスメックス株式会社では、人材開発体系を整備し、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を軸とした計画的な人材育成を行っています。これにより、シスメックス株式会社の2016年3月期の1人当たり平均研修費用は前期の約16万円から約18万円へと増加しました。



グローバルコミュニケーションセンターでの研修

グローバルに人材を育成

シスメックスのグループ従業員総数は7,000名を超え、海外従業員比率は50%を超えています。グローバル化の進展にともない、2015年にグループ共通の人材開発体系「グローバル人材開発体系」を制定し、「グループ一体感の強化」「次世代人材の育成」「グループ間ネットワークの強化、異文化理解」を狙いとした取り組みを推進しています。

例えば、若手従業員を対象とした「グローバルアプレンティスプログラム」を実施し、早期に海外業務経験の機会を提供することによって将来のグローバル人材を育成しています。

さらに、2015年には人材育成および交流の新拠点「グローバルコミュニケーションセンター」を開設しました。個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて互いに価値観を共有し、気付きを得ることで、新たな価値や文化の探求、創造に力を出し合う場として活用しています。



業務を通じた他地域従業員との交流

多様性の促進

多様性の尊重に向けた取り組みの一環として、国籍・人種・性別・障がいの有無に関係なく、従業員一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮できる職場環境づくりを目指しています。

女性活躍の推進については、仕事と育児の両立支援に向けたさまざまな休暇制度の整備や社内託児所の開設などに取り組んだ結果、シスメックス株式会社の女性従業員比率は2006年3月期の18.4%から2016年3月期には32.4%へととなりました。また、女性管理職比率(課長級以上)も2006年3月期の2.4%から2016年3月期は8.3%にまで上昇しています(2021年3月期末目標15%以上)。なお、2016年3月期のグループ全体の女性管理職比率は14.3%となっています。

女性管理職比率(課長級以上)

	2014.3	2015.3	2016.3
シスメックス株式会社	5.3	6.5	8.3
グループ全体	10.6	11.6	14.3



安心して能力を発揮できる職場環境の整備

多様な人材が働きやすい環境を整えるため、世界各地でワークライフバランスの支援を進めています。その結果、従業員の満足度が向上するとともに、社外からも評価を受け、さまざまな表彰に結びついています。

- 働きがいのある会社「Great Place to Work」
シスメックス ヨーロッパ(2012年、2014年、2016年)
シスメックス ブラジル(2014年)
- 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業
「Companies That Care Honor Roll」
シスメックス アメリカ(2009年～2016年)
- 働きやすい会社
「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2015」
シスメックス アジア パシフィック(2015年)
- 日経「人を活かす会社」ランキング
シスメックス株式会社(2015年)総合ランキング24位(前年30位)



「Great Place to Work」を受賞したシスメックス ブラジル社員



環境保全

環境方針にもとづき、 環境負荷低減に向けて取り組んでいます。

シスメックスグループ環境行動計画の達成に向けた取り組みを推進

シスメックスは、環境方針にもとづき「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」を策定し、2016年3月期には中期環境目標（2016年3月期～2018年3月期）を設定しました。目標達成に向けてグループで継続的に環境負荷の低減に取り組んでいます。

シスメックスグループ環境行動計画 （シスメックスエコビジョン2020）

- 環境に配慮した製品・サービスの提供
- 国内・域間物流のCO₂排出量50%削減
（単体売上高原単位、基準年度：2011年3月期）
- 事業所における温室効果ガス排出量50%削減
（連結売上高原単位、基準年度：2009年3月期）
- 事業所のリサイクル率93%以上の達成
- 試薬生産工場の水使用量10%削減
（生産量原単位、基準年度：2009年3月期）

環境に配慮した事業所・工場の設立

シスメックスは、新たな事業所・工場を設立する際、その運用にともなう環境負荷を極力削減するために環境に配慮した設計や設備・機器、運用プロセスを導入するよう心がけています。

2014年に設立した機器生産工場アイ スクエアは、エネルギー消費とCO₂排出を削減するためにLED照明や太陽光発電モジュールを導入しました。なお太陽光発電は、アイ スクエアの全電力使用量の約10%をまかっています。また、2016年3月期に拡張したドイツの試薬生産工場もエネルギー使用量とCO₂排出量の削減に配慮したシステムを導入しています。（詳細は以下コラム参照）



機器生産工場アイ スクエア

環境に配慮したドイツ試薬生産工場の拡張

2016年3月期、EMEAでの需要拡大に対応するため、ドイツの試薬生産工場を拡張し、生産能力を従来の1.5倍に増強しました。同工場では、エネルギー使用量・CO₂排出量の削減を目指して、太陽光パネルと、自然エネルギーを利用した季節間蓄熱空調システム「Ice thermal storage system[※]」を導入しました。

※Ice thermal storage system：地中に埋めた水を冬期の外気で製氷し、その氷を夏期の冷房に利用。冬期は外気よりも暖かい地中の水から熱を吸収し、暖房に利用するシステム



ドイツの試薬生産工場

物流のプロセスと体制を見直し、 効率化および環境負荷低減を実現

シスメックスは、製品分野や販売地域の拡大にともない、物流の多様化に対応した物流プロセス・物流体制の見直しを実施しています。

全体最適なグローバル物流体制の再構築やプロセス改革によるサプライチェーンのリードタイム短縮を目的とし、2012年にプロジェクトを立ち上げ、段階的に物流体制の見直しや梱包改革を進めています。

このプロジェクトの取り組みは、物流改革に加え、シスメックスが掲げる「シスメックス・エコビジョン2020」の環境負荷低減を達成するための有力な手段にもなっています。

例えば、一部の保冷試薬の海外輸送を航空便から船便に転換することにより、大幅なCO₂排出量削減に成功しました。また、機器製品の本体付属品の一部を現地調達に切り替えたことにより、リードタイムの大幅な短縮を実現しただけでなく、輸送距離が削減され、CO₂排出量の削減にもつながりました。さらに、積載シミュレーションを強化することで製品の出荷タイミングを調整し、船便コンテナへの積載率を向上させ、輸送回数を削減することができました。

これらの取り組みの成果として、2016年3月期の物流CO₂排出量（売上高原単位）は2011年3月期比から48%減少しました。

物流CO₂排出量削減の取り組み

物流CO₂排出量（売上高原単位）



梱包設計の見直しによる省資源化・ リサイクル率の向上

機器製品の梱包サイズ適正化や輸出先の地域特性を考慮した梱包設計の導入により、省資源化やリサイクル率向上に取り組んでいます。

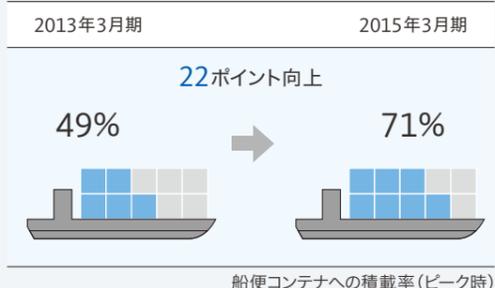
具体的には、梱包設計の見直しを進め、海外向け製品の一部では輸送中の取り扱いによる損傷の恐れがないスチール梱包を導入しました。また、2段積み保管による保管スペース削減や届け先での梱包材リサイクル実現にも寄与しています。一方、国内向けには繰り返し利用できるリユース梱包や簡易包装を導入するなど、地域の特性に合わせた環境負荷低減を進めています。これらの取り組みの成果として、段ボール廃棄物を2016年3月期の1年間で20t削減しました。

さらに、消耗品や部品の過剰包装の改善に取り組むとともに、機器製品の梱包サイズの適正化や包装の簡素化を図っています。

今後もシスメックスは、グローバルでの供給責任が拡大していることを認識し、継続的な物流効率の改善とともに環境負荷の低減に取り組んでいきます。

取り組み事例

積載シミュレーションの強化により、製品の出荷タイミングを調整して船便コンテナへの積載率を向上



社会への貢献

事業を通じて豊かな健康社会、 活き活きとした地域社会づくりに貢献しています。

検査技術創出により 深刻な感染症の撲滅に貢献

近年、急速なグローバル化の進展にともない、国境を越えた疾患の拡大が世界的な課題となっています。特にHIV/AIDS、結核、マラリア、その他の疾病のまん延防止は、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の目標「すべての人に健康と福祉を」の中で重要な課題として挙げられています。

シスメックスは、新興国や開発途上国における感染症の診断に寄与するため、マラリア、デング熱、HIVなどの検査技術の創出や製品開発に取り組んでいます。

マラリア感染は、初期段階では臨床症状から感染しているマラリア種の鑑別が難しく、また適切な治療がなされないと重症化または、死に至ることもあることから、早期鑑別・早期診断が求められます。シスメックスの機器は、以前より血液検査でマラリア感染細胞を血球

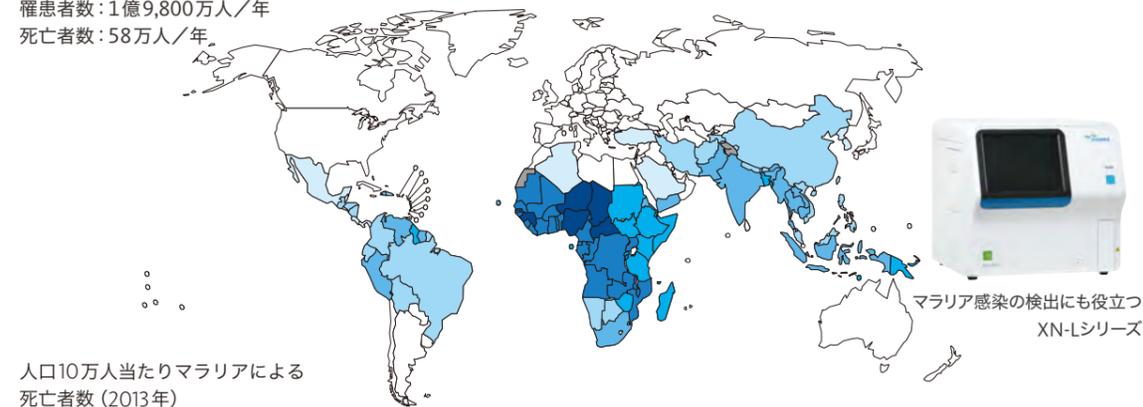
形態異常のフラッグ※として検出する機能を有していましたが、さらなる価値向上に向けてマラリア感染細胞を検出・カウントする技術を開発しています。この技術により、簡単・迅速な血液検査でマラリア感染の有無、重症度判定、また感染しているマラリア種(原虫種)の鑑別など診療に役立つ情報の提供が可能となります。また、2013年に子会社化したシスメックス パルテックは、HIV/AIDSや結核、マラリア患者の治療・モニタリングに有効な小型ポータブル機器を有しており、さらなる製品開発を進めています。

さらに2015年には「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとする「公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)」に唯一の診断薬企業として参画しました。

※フラッグ：特定の検体異常の可能性を知らせる機能。検査の補助データとしてのみ使用され、診断に直結するものではありません。

マラリア流行地域

罹患者数：1億9,800万人/年
死亡者数：58万人/年



人口10万人当たりマラリアによる死亡者数 (2013年)

- 100人以上
- 50-99人
- 10-49人
- 1-9人
- 1人未満
- マラリア患者数0
- マラリアによる推定死亡者数0
- 未集計

出典：WHO

がん撲滅を目指した従業員ボランティアによる 募金キャンペーン

がんは世界で最も多くの死亡者を出している疾患であり、今後もその患者数は増え続けると予測されています。

シスメックスは、がんの早期発見に役立つ製品を生産・販売するとともに、アメリカ癌学会をはじめとする、がんの予防や研究を支援する団体への寄付など、がん撲滅を目指した社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



Sysmex Against Cancer 寄付金贈呈式

2015年3月期には、新たにEMEAで従業員ボランティアが中心となり、がん撲滅に向けた募金キャンペーン「Sysmex Against Cancer」を開始しました。当キャンペーンで集められた募金は、がん予防に関する啓発や研究支援に取り組む世界がん研究基金に寄付され、2015年3月末までに総額24万1,733ユーロを寄付しました。

寄附講座の開設を通じた医療への貢献

2005年3月期から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学 (シスメックス)」を開設し、新規の臨床検査技術の共同研究活動を進めています。現在、同講座では、当社の中央研究所と共同で、HDL (高比重リポタンパク) 機能の評価により、心疾患のリスクを高精度かつ簡便に診断する技術の開発を行っています。今後も、科学的根拠に基づいた検査医学の研究を通じて、新たな検査技術の確立や技術の実用化を目指した研究開発に取り組むとともに、地元大学への支援などを通じて地域社会へも貢献していきます。

シスメックスのCSR

シスメックスは、CSRへの取り組みをさらに推進するために、2011年以降、国連グローバル・コンパクトに参加しています。また、国連グローバル・コンパクトの10原則や、社会的責任の国際規格ISO26000などを参照し、CSR中期計画を策定して活動に取り組んでいます。

シスメックスは持続可能な企業として、社外からも高く評価されています。例えば、コーポレート・ナイツ社が選定している2016年版「Global 100」(世界で最も持続可能な100社)において88位(「Health Care Equipment & Supplies」では1位)となりました。また、「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」をはじめ、その他代表的なSRI(社会的責任投資)インデックスにも選定されています。

CSRに関する詳しい取り組みについては、Webサイトをご覧ください。

<http://www.sysmex.co.jp/csr/>



Network Japan
WE SUPPORT

Dow Jones
Sustainability Indices
In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good

連結財務・非財務データ(11期)

3月31日に終了した各会計年度(日本基準)	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
(百万円)											
会計年度：											
売上高	87,887	101,041	110,724	111,842	116,174	124,694	134,743	145,577	184,538	221,376	253,157
営業利益	10,723	12,714	15,033	15,134	15,708	18,288	19,205	21,804	32,870	44,411	56,962
親会社株主に帰属する当期純利益 ^{※1}	7,422	9,008	9,131	8,013	9,764	11,411	12,007	14,165	20,573	26,638	36,233
設備投資	5,638	4,546	8,244	9,340	4,540	5,839	7,908	8,945	13,365	13,907	13,095
減価償却費	3,592	4,008	3,958	7,225	7,066	6,871	7,031	7,945	9,960	11,258	12,253
研究開発費	8,184	9,026	9,221	10,771	11,238	12,380	11,904	12,119	13,260	14,692	17,775
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,275	10,085	11,634	13,193	21,229	18,135	17,058	25,806	36,563	38,640	39,567
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,858	△6,630	△12,883	△13,544	△6,603	△8,915	△10,372	△12,524	△33,940	△19,544	△21,622
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,190	△457	△1,316	723	△10,090	△3,474	△3,813	△3,116	△2,897	△7,554	△8,755
会計年度末：											
総資産	87,446	101,225	109,027	118,521	120,702	130,059	142,285	173,010	210,758	247,983	267,638
現金及び現金同等物の期末残高	9,416	12,714	9,679	9,410	13,812	18,915	21,838	34,306	36,547	50,219	56,481
純資産	62,646	72,396	79,117	79,850	87,136	94,232	102,502	119,153	146,250	169,550	188,095
有利子負債	695	669	1,081	10,343	2,565	1,970	1,025	769	1,959	716	1,348
(円)											
1株当たりデータ：											
1株当たり純資産 (BPS) (円)	1,251.8 ^{※3}	1,411.1	1,540.9	1,548.1	1,684.9	910.6 ^{※3}	990.5	1,151.3	703.7 ^{※3}	812.3	899.5
1株当たり当期純利益 (EPS) (円)	145.4 ^{※3}	179.6	178.9	156.7	190.7	111.1 ^{※3}	116.8	137.5	99.4 ^{※3}	128.4	174.4
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	143.7 ^{※3}	177.9	178.3	156.4	190.5	110.9 ^{※3}	116.6	137.0	99.1 ^{※3}	128.0	173.7
年間配当金 ^{※2} (円)	6.50 ^{※3}	9.00	12.00	12.50	14.00	15.00 ^{※3}	17.00	20.00	27.00 ^{※3}	38.00	52.00
配当性向 (%)	17.9	20.0	26.8	31.9	29.4	27.0	29.1	29.1	27.1	29.6	29.8
その他主要データ：											
営業利益率 (%)	12.2	12.6	13.6	13.5	13.5	14.7	14.3	15.0	17.8	20.1	22.5
海外売上高比率 (%)	59.7	62.5	67.5	68.0	68.3	69.1	70.5	72.4	78.2	81.7	84.3
自己資本比率 (%)	71.6	70.4	72.2	66.8	71.5	71.9	71.5	68.6	69.1	67.9	69.8
自己資本利益率 (ROE) (%)	12.5	13.4	12.1	10.1	11.8	12.6	12.3	12.8	15.5	16.9	20.3
総資産経常利益率 (ROA) ^{※4} (%)	14.5	14.4	13.8	11.4	13.2	14.3	14.0	14.6	17.6	20.0	21.1
従業員数 (パートタイマーなどを含む)	3,334	3,580	3,916	4,148	4,576	4,957	5,521	5,594	6,211	6,742	7,446
女性管理職比率 (課長級以上) (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	10.6	11.6	14.3
事業所温室効果ガス排出量 連結売上高原単位 ^{※5} (t-CO ₂ / 億円)	—	—	—	10.08	10.86	9.53	8.65	8.63	7.98	7.28	7.26

※1 2015年3月期以前の数値は「当期純利益」の数値

※2 株式分割後ベースに換算した配当金(年間)

※3 株式分割(1:2)

※4 経常利益/総資産(期中平均)×100

※5 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外試薬工場

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2015年3月期末	2016年3月期末
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,272	56,544
受取手形及び売掛金	53,038	55,505
リース投資資産	5,413	8,535
有価証券	240	299
商品及び製品	22,737	27,056
仕掛品	2,869	2,984
原材料及び貯蔵品	4,281	5,581
繰延税金資産	8,987	7,911
前払費用	1,991	2,201
その他	4,891	6,632
貸倒引当金	△575	△588
流動資産合計	154,148	172,665
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	38,007	42,556
減価償却累計額	△15,582	△17,439
建物及び構築物(純額)	22,425	25,116
機械装置及び運搬具	10,523	10,772
減価償却累計額	△6,628	△6,366
機械装置及び運搬具(純額)	3,895	4,406
工具、器具及び備品	47,446	51,359
減価償却累計額	△30,612	△34,161
工具、器具及び備品(純額)	16,834	17,198
土地	11,259	11,310
リース資産	2,629	1,395
減価償却累計額	△2,118	△243
リース資産(純額)	510	1,152
建設仮勘定	4,136	2,050
有形固定資産合計	59,061	61,235
無形固定資産		
のれん	12,114	9,085
ソフトウェア	7,112	9,233
その他	4,555	4,922
無形固定資産合計	23,783	23,241
投資その他の資産		
投資有価証券	7,174	6,753
繰延税金資産	267	329
退職給付に係る資産	960	582
長期前払費用	419	581
その他	2,172	2,253
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	10,990	10,496
固定資産合計	93,835	94,973
資産合計	247,983	267,638

(単位：百万円)

	2015年3月期末	2016年3月期末
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,965	19,873
リース債務	50	149
未払費用	8,301	6,864
未払法人税等	9,639	6,817
繰延税金負債	101	315
賞与引当金	6,119	6,538
役員賞与引当金	411	526
製品保証引当金	456	554
その他	24,124	24,254
流動負債合計	65,170	65,895
固定負債		
リース債務	199	733
繰延税金負債	8,993	8,778
役員退職慰労引当金	102	102
退職給付に係る負債	460	463
その他	3,507	3,568
固定負債合計	13,262	13,646
負債合計	78,432	79,542
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,483	11,016
資本剰余金	15,423	15,957
利益剰余金	129,703	155,562
自己株式	△280	△285
株主資本合計	155,330	182,251
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,366	1,170
繰延ヘッジ損益	0	2
為替換算調整勘定	10,428	3,429
退職給付に係る調整累計額	1,400	143
その他の包括利益累計額合計	13,196	4,745
新株予約権	1,024	1,097
非支配株主持分	—	0
純資産合計	169,550	188,095
負債純資産合計	247,983	267,638

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期
売上高	221,376	253,157
売上原価	95,358	102,063
売上総利益	126,018	151,093
販売費及び一般管理費	81,606	94,131
営業利益	44,411	56,962
営業外収益		
受取利息	232	285
受取配当金	75	82
助成金収入	290	310
為替差益	932	—
その他	322	284
営業外収益合計	1,854	963
営業外費用		
支払利息	44	46
売上割引	42	44
持分法による投資損失	83	502
為替差損	—	2,743
その他	140	246
営業外費用合計	310	3,582
経常利益	45,955	54,342
特別利益		
固定資産売却益	28	22
投資有価証券売却益	0	—
退職給付制度改定益	—	1,037
新株予約権戻入益	—	21
特別利益合計	28	1,082
特別損失		
固定資産除売却損	143	364
減損損失	111	—
投資有価証券評価損	—	400
会員権評価損	1	—
特別損失合計	256	764
税金等調整前当期純利益	45,727	54,660
法人税、住民税及び事業税	17,118	16,513
法人税等調整額	1,970	1,912
法人税等合計	19,089	18,426
当期純利益	26,638	36,233
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する当期純利益	26,638	36,233

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期
当期純利益	26,638	36,233
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	232	△196
繰延ヘッジ損益	0	1
為替換算調整勘定	1,775	△6,999
退職給付に係る調整額	563	△1,256
その他の包括利益合計	2,572	△8,450
包括利益	29,210	27,782
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	29,210	27,782
非支配株主に係る包括利益	△0	△0

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

2015年3月期	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,243	15,183	109,976	△270	135,133
会計方針の変更による 累積的影響額			△195		△195
会計方針の変更を反映した 当期首残高	10,243	15,183	109,781	△270	134,938
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	240	240			480
剰余金の配当			△6,734		△6,734
親会社株主に帰属する 当期純利益			26,638		26,638
自己株式の取得				△10	△10
連結子会社の決算期 変更に伴う増減			—		—
持分法適用会社の減少に 伴う利益剰余金増加高			19		19
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	240	240	19,922	△10	20,392
当期末残高	10,483	15,423	129,703	△280	155,330

	その他の包括利益累計額					新株 予約権	非支配 株主持分	純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,134	—	8,652	836	10,623	493	0	146,250
会計方針の変更による 累積的影響額								△195
会計方針の変更を反映した 当期首残高	1,134	—	8,652	836	10,623	493	0	146,054
当期変動額								
新株の発行 (新株予約権の行使)								480
剰余金の配当								△6,734
親会社株主に帰属する 当期純利益								26,638
自己株式の取得								△10
連結子会社の決算期 変更に伴う増減								—
持分法適用会社の減少に 伴う利益剰余金増加高								19
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	232	0	1,775	563	2,572	530	△0	3,103
当期変動額合計	232	0	1,775	563	2,572	530	△0	23,496
当期末残高	1,366	0	10,428	1,400	13,196	1,024	—	169,550

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

2016年3月期	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,483	15,423	129,703	△280	155,330
会計方針の変更による 累積的影響額			—		—
会計方針の変更を反映した 当期首残高	10,483	15,423	129,703	△280	155,330
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	533	533			1,067
剰余金の配当			△9,549		△9,549
親会社株主に帰属する 当期純利益			36,233		36,233
自己株式の取得				△4	△4
連結子会社の決算期 変更に伴う増減			△824		△824
持分法適用会社の減少に 伴う利益剰余金増加高			—		—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	533	533	25,859	△4	26,921
当期末残高	11,016	15,957	155,562	△285	182,251

2016年3月期	その他の包括利益累計額							
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	新株 予約権	非支配 株主持分	純資産 合計
当期首残高	1,366	0	10,428	1,400	13,196	1,024	—	169,550
会計方針の変更による 累積的影響額								—
会計方針の変更を反映した 当期首残高	1,366	0	10,428	1,400	13,196	1,024	—	169,550
当期変動額								
新株の発行 (新株予約権の行使)								1,067
剰余金の配当								△9,549
親会社株主に帰属する 当期純利益								36,233
自己株式の取得								△4
連結子会社の決算期 変更に伴う増減								△824
持分法適用会社の減少に 伴う利益剰余金増加高								—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△196	1	△6,999	△1,256	△8,450	73	0	△8,376
当期変動額合計	△196	1	△6,999	△1,256	△8,450	73	0	18,544
当期末残高	1,170	2	3,429	143	4,745	1,097	0	188,095

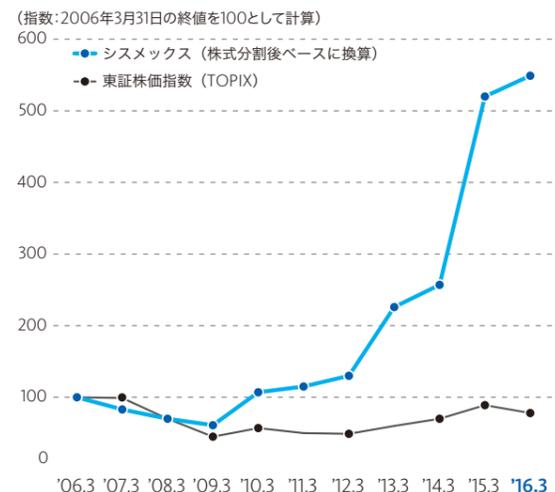
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

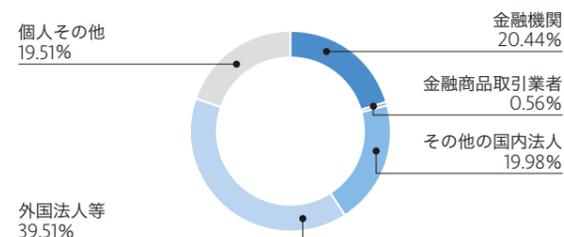
	2015年3月期	2016年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	45,727	54,660
減価償却費	11,258	12,253
減損損失	111	—
のれん償却額	1,695	1,932
退職給付制度改定益	—	△1,037
賞与引当金の増減額(△は減少)	931	577
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	141	115
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△368	50
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△640	△48
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	—	△374
受取利息及び受取配当金	△308	△368
支払利息	44	46
持分法による投資損益(△は益)	83	502
投資有価証券評価損益(△は益)	—	400
固定資産除売却損	143	364
売上債権の増減額(△は増加)	△6,849	△5,476
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,785	△6,820
仕入債務の増減額(△は減少)	2,517	4,145
未払又は未収消費税等の増減額	△1,619	△903
その他	2,826	△1,197
小計	53,911	58,820
利息及び配当金の受取額	306	356
利息の支払額	△24	△31
法人税等の支払額	△15,551	△19,578
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,640	39,567
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△147	△138
定期預金の払戻による収入	157	134
有形固定資産の取得による支出	△13,033	△13,685
有形固定資産の売却による収入	91	107
無形固定資産の取得による支出	△3,455	△6,167
投資有価証券の取得による支出	△2,349	△831
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△403
子会社株式の取得による収支	△341	—
その他	△464	△638
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,544	△21,622
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,000	—
長期借入金の返済による支出	△148	△0
リース債務の返済による支出	△57	△50
株式の発行による収入	396	849
自己株式の取得による支出	△10	△4
配当金の支払額	△6,734	△9,549
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,554	△8,755
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,129	△2,320
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	13,672	6,868
現金及び現金同等物の期首残高	36,547	50,219
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	△605
現金及び現金同等物の期末残高	50,219	56,481

株式情報 (2016年3月31日時点)

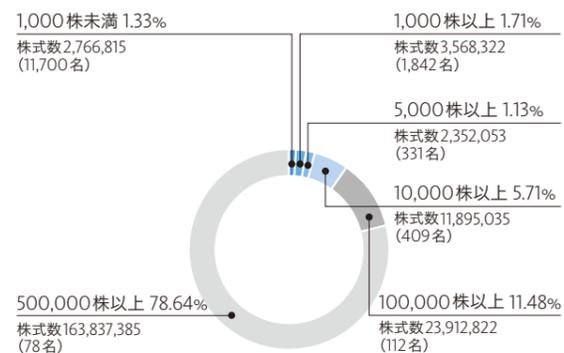
株価



所有者別分布状況



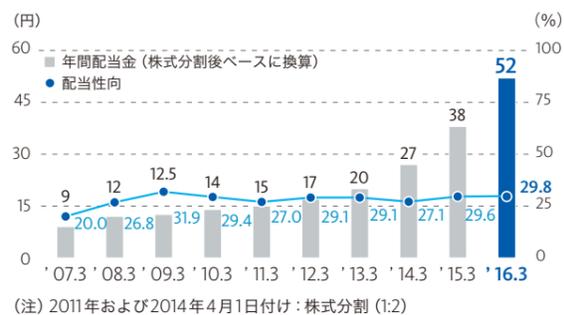
所有数別分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	23,105	11.1
ジェイビー・モルガン・チェース・バンク 380055	12,371	5.9
公益財団法人神戸やまぶき財団	12,000	5.8
公益財団法人中谷医工計測技術振興財団	11,830	5.7
有限会社中谷興産	10,297	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	8,080	3.9
家次和子	6,124	2.9
和田妙子	6,124	2.9
井谷憲次	5,000	2.4
両晋株式会社	4,800	2.3

年間配当金/配当性向(連結)



配当政策

シスメックスは、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しています。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

会社情報 (2016年3月31日時点)

シスメックス株式会社

設立	1968年2月20日
本社所在地	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
お問い合わせ先	IR・広報部 TEL: 078-265-0500
Webサイト	当社に関する詳細・最新情報はWebサイトをご覧ください。 ホームページ http://www.sysmex.co.jp/ IR情報 http://www.sysmex.co.jp/ir/ CSR情報(企業の社会的責任) http://www.sysmex.co.jp/csr/
従業員数	7,446名(連結) (嘱託およびパートタイマーなどを含む)
決算期	3月31日
定時株主総会	6月
会社が発行する株式の総数	598,688,000株
発行済株式総数	208,332,432株
資本金	11,016百万円
上場市場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	6869
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
独立監査人	有限責任監査法人トーマツ
格付	A+ 格付投資情報センター(R&I)
主要採用インデックス	大和日本株インデックス Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index Ethisbel Pioneer & Excellence FTSE4Good Index JPX日経インデックス400 MSCI Standard Index MSCI Global Sustainability Indexes Russell/Nomura 日本株インデックス S&P Japan 500

